

體源抄

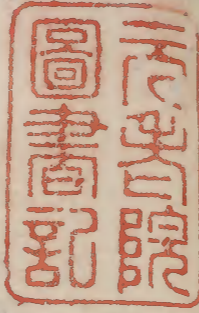
田

和書門類			
九二二七號	一八九函	一二架	三四册

內閣文庫		和書類
九二二七號	九三二函	九三二架

內閣文庫	
番號	和 9227
冊數	34 (6)
函號	199 133





龍源抄四

○答笙之事

重記之三管之品再圖篋已下
故實調次第之事大略載之

又名鳳管。又名隨笙。形寫鸞翼。
笙者所庚切。

夫笙者大簇之氣上春之音也。河汾之寶曲沃
懸匏鄒魯之珍。汶陽之孤篠習々春風

離鴻霧咽如蒼々秋月。別鶴宵鳴似

况入王子晉維嶺遊一聲鳳管。送穆天子。瑤

池宴レ數曲。鸞吟。和樂聲。亮テ室。盡テ歡悲。

音奏ニテ坐ニ列テ泣ク誠ニ是レ陰陽ニ達ス道ニ風俗ヲ易シ源ト

釋名曰

音生俗云
生能布江

竹之母曰匏

薄交反俗
云空保

以瓢為之

竽亦是也

音于

其中受簧

音黃

於管頭橫

施於其中

同曰笙生也物地貫生象レ又篳匏レ

是レ作故匏レ云篳又是也其中空レ以簧受

也今案曰竹之母曰匏

混天圖云レ笙レ女媧氏所作也十九之鳳濱

立レ鳴聲種レ女媧是レ聞レ峴谷竹切

竹作レ仍稱レ鳳管レ名也禮記云女媧笙簧

造レ文選注云女媧氏笙レ作レ

列仙傳云王子喬笙歌レ作或云王子晉レ人

焉レ兹山ト云山レスレルレ鳳凰ノ鳴声レ聞レ造レ

吹習レ故レ鳳管ト云云吳都賦云姚笙レ象レ

說文云笙正月ノ音物生故是レ笙ト云十三ノ

郭陸云大笙管レ匏レ中レ列レ簧レ匏レスレノ云竹レ簫レ匏レ

管レ端レ大者十九簧レ繼レ為レ金レノ云大笙音レ者是レ和レト云

一レ本レ也レ簧レ管レ端レ施レスレリレ音人ノ云大笙音聲衆

高レ小者音相和レ

釋名曰

音生俗云
生能布江

竹之母曰匏

薄交反俗
云空保

以瓢為之

竽亦是也

音十

其中受簧

音黃
俗云之太

於管頭橫

施於其中

○同曰笙生也物

地貫

生象

十又箏

匏

以テ

是ヲ作ル故

匏ト云

箏又是也其中空

シテ

以テ

簧ヲ受

也今案曰竹之母曰匏

○混天圖云笙女媧氏

所作也十九之鳳濱

立テ鳴聲種々

女媧是

聞

解ハ谷

竹ヲ切

テ

竹ヲ作ル仍稱鳳管名也礼記云女媧笙簧

造ル文選注云女媧氏笙竽ヲ作ル

列仙傳云王子喬笙歌ヲ作或云王子晉ト云人

焉崑山ト云山ヲスクル鳳凰ノ鳴声ヲ聞テ造フ

吹習フ故鳳管ト云云吳都賦云姚笙竽ヲ象ル

○說文云笙正月ノ音物生故是ヲ笙ト云十三ノ

簧アリ鳳聲ニ象ル遊方回錄云竹ヲ簫ト匏ト

笙ト小雅云大笙是ヲ巢ト云小者是ヲ和ト云

郭璞云大笙管ノ匏ノ中ニ列テ簧ヲ管ノ端ニ施スナリ
大者十九簧小者十三簧礎為舍人ノ云大笙音聲衆
高シ小者音相和ナリ

大笙管ノ匏ノ中ニ列テ簧ヲ管ノ端ニ施スナリ
大者十九簧小者十三簧礎為舍人ノ云大笙音聲衆
高シ小者音相和ナリ

白虎通云笙之言施也萬物始施^ラ牙^{キヤス}笙者
大簇之氣^ル行萬物之生^ル象^ル故^ニ笙^ト云

○同云笙七政ノ節アリ四方ノ天地ノコト也六合ノ和^リ
天地樂之故ニコレヲ笙ト云
此一段前ニ注シテトモ此ノ前後十六書之

今案史記律書曰正月律養簇ニアル養簇言ハ万物簇^リ生^リ

○蔡邕月令章句ニ云季秋之月上下入學習吹^テ笙氣^ヲ
通^ル故^リ同云官管^宮左方^旁アリ十九簧^{アリ}十三簧^{アリ}

ニ至ニテヲ笙ト云

○穆天子傳ニ云西王母吟曰吹笙鼓簧^{簧在}
笙中中心翱翔

○尚書益稷云笙鏞以同鳥獸^{嗆々}

○孔安國云同迭也吹笙擊鐘鳥獸化德相率而

會^ハ惟^テ笙^也巴能^ハ群^也解^也清^也研^也惟^テ笙^也

○又云十簧^也七年石君考之清惟笙也能總衆清

孔安國云造笙吹鼓聲鳥獸德^ヲ仰^リ
相率^リ日舞^也 一^本也

○太子碧桃花下好^味

白詠云懸匏^也由沃^也上下^也一^本孤^也篠^也汶^也陽^也
際^也形^也吹^也管^也翼^也寫^也聲^也舞^也風^也象^也池^也
歡^也保^也北^也里^也純^也孝^也南^也陰^也昭^也日^也震^也音^也
奏^也漢^也三^也鳥^也歡^也東^也一^本也
自北里絕孝即南陰

白虎通云笙之言施也萬物始施牙キヤ笙者
大簇之氣リ萬物之生ル象ル故笙ト云

○同云笙七政ノ節アリ四方ノ天地ノト也六合ノ和リ
天地樂之故コレヲ笙ト云

此一段前ニ注シテトモ此ノ
前後十六書之
今案史記律書曰正月律泰簇ニアタル泰簇言ハ万物
簇リ生リ

○蔡邕月令章句云季秋之月上下入學習吹笙氣ラ
通念故リ同云官管宮九方旁アリ旁十九簧旁十三簧旁

ニ至ニテヲ笙ト云

○穆天子傳云西王母吟曰吹笙鼓簧簧在
笙中中心翱翔

○尚書益稷云笙鏞以間鳥獸噏々

○孔安國云間迭也吹笙擊鐘鳥獸化德相率而
舞噏々

○又云惟簧也能研群聲之清惟笙也能總衆清
之林

○鮑溶詩云心美周靈王太子碧桃花下好吹笙

有詠云懸匏曲沃上孤篠汶陽隈形寫歌鸞

翼聲隨舞鳳哀歡娛自北里絕孝即南陔

今日虞音奏 踏々鳥獸未

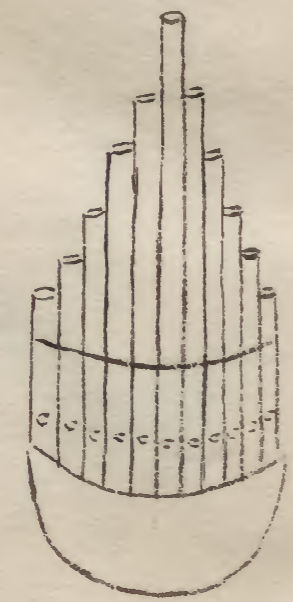
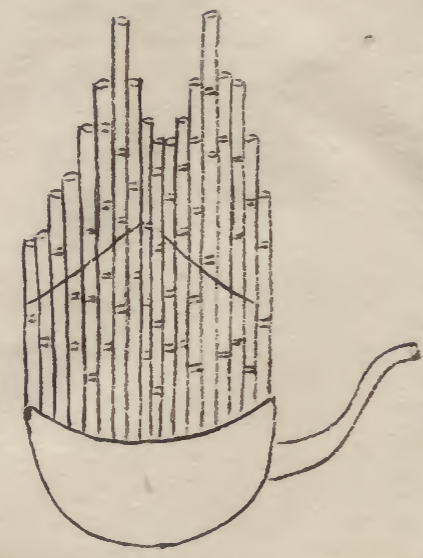
止觀第一云 崑竹キラサレハ 鳳音アワワレス 悟性
練可レハ 神明発セス トイヘリ
未顯与衆生既顯云 仏陀此秋テ可心得ナリ

文集詩云ノ 摧竹藏 係不足聞
今葉之云 摧竹有笙ノ 黃弱ハ 其音不堅強也
云藏係者 彈弦音藏ラ 不羨也

○笙圖

○笙

○葉笙



○笙長一尺八寸

圍七寸

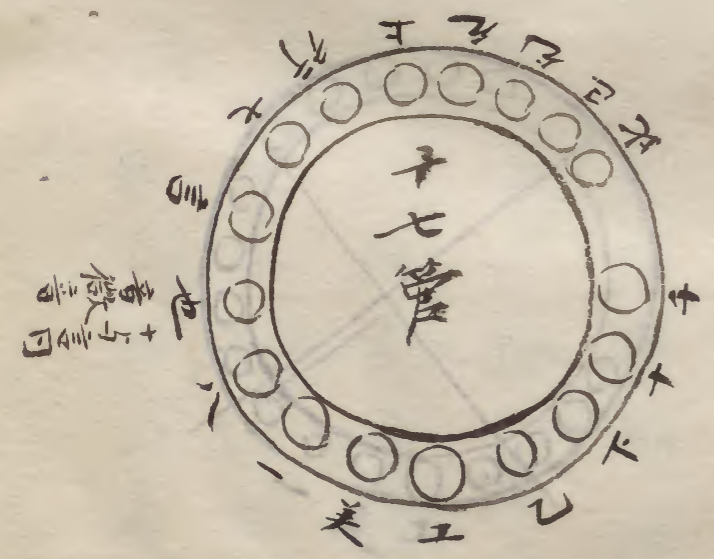
○管十九今十七簧笙中名也
○鳳笙

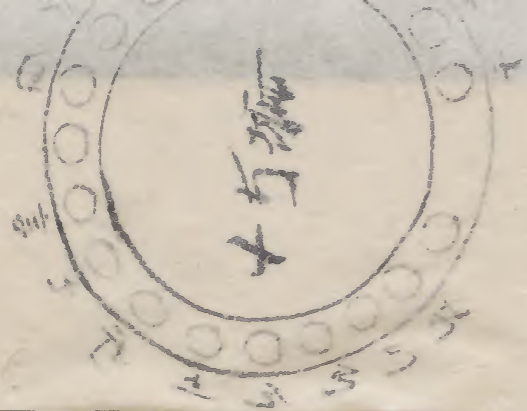


竹穴名者

千十下乙上美一八也言七行上凡
乞已此從端短笛起順計之

又半ト此兩竹ハ未此朝へ傳へス又此竹ノ中ニ古
十キ竹ハ也已ノ竹ナリ是ニ廉射香ヲハ入ルナリ





又半ト此兩竹ハ未此朝へ傳へス又此竹ノ中ニ古
 ナキ竹ハ也已ノ竹ナリ是ニ麝香ヲ入ルナリ

○管十九今十七簧笙中名也
 ○鳳笙



竹穴名者

千下乙上美一八也言七行上凡
 乞已比 從端短笛起順計之

甲乙之音次第

凡乙黃鐘調之音 律
 一下盤涉調之音 律
 工美鳳音調之音 律
 己斗鸞鏡調之音 呂
 卜比勝絕調之音 律
 十上雙調之音 呂
 斗卜斷金調之音 呂
 比也神仙調之音 呂
 凡行壹越調之音 呂
 乙十平調之音 律
 下言龍吟調之音 律
 美己鳧鐘調之音 律

笙調次第

以圖合乙八同音以乙為甲調一七乙以七為甲調下十乙
笛下 笛中 笛上

以下為甲調工言乙以工為甲調美乙
笛下 乙以上甲乙乙調次第畢

以乙為乙調乞行甲以行為乙調上凡甲以上為乙調下也甲
笛 甲 已上甲乙調次第也

笙合五音笛九樣

平調 乙八宮 十下 商 十角律 美 角呂 行 變徵律 一七 徵 比无 工言 凡上 變羽律
 尺食調 十下 宮 十凡也 美 高 行 乞 角呂 一七 變徵律 比 變徵呂 工言 徵 上凡 凡 乙八 變徵律
 下无 十宮 美 先 行 乞 高 一七 角呂 比 變徵律 工言 變徵呂 上凡 徵 凡 乙八 凡 十 變徵律
 双調 十宮 美 先 行 乞 高 一七 角呂 比 變徵律 工言 變徵呂 上凡 徵 凡 乙八 凡 十 變徵律
 无微音故 美 宮 行 乞 无 一七 角律 比 角呂 工言 變徵律 上凡 變徵呂 乙八 凡 十 變徵律
 非調子 美 宮 行 乞 无 一七 角律 比 角呂 工言 變徵律 上凡 變徵呂 乙八 凡 十 變徵律
 黃鐘 行 乞 宮 一七 高 比 角律 工言 角呂 上凡 變徵律 乙八 徵 十 下 調 十 變徵律也 美 變羽呂

盤涉、
 一七 比无 工言 上凡 角律 乙八 变徵 午下 微 十无 美 行乞 变宫律
 比 宫 工言 无 上凡 高 乙八 角吕 午下 变徵 吕 十微 也 美 无 行乞 羽 一七 变徵 吕
 上尊、
 工言 宫 上凡 九 乙八 前律 午下 变徵 律 变徵 吕 美 微 行乞 无 一七 变徵 律 比 变羽 吕
 壹越
 上凡 宫 乙八 高 午下 角吕 丁也 变徵 律 美 变徵 吕 行乞 微 一七 羽 变羽 律 上言 变羽 吕
 已上九之中美为宫之時元微音之故非調子
 欵但依唐笙者已即斗也又美之乙音也
 若然者九箇調子皆備甲乙者也又也与
 十同音也

唐笙圖

以紫竹笙寫之畢竹立樣如日不笙為如
 并上如此并書也并上之高其音大并上
 之下其音細也

已上日本笙譜竹名如此
已上唐笙竹名如此

已上中御門大弼言宗俊并中院石大
臣雅定但以此圖記穴脉後讀之

樂望圖譜

孝注曰移風易俗莫善於樂孟子云今之樂猶
古之樂也子月黃鐘之律為宮從本律數八
至林鐘為徵林鐘數八至大簇為商大簇數
八至南呂為羽南呂數八至姑洗為角姑洗數
八至應鐘為宮應鐘數八至蕤賓為宮徵

是謂之七調周而復始十二月之律合為八十四調之法大備矣

七宮屬土七商屬金七羽屬水七角屬木

徵音屬火

商口開張 宮舌居中 羽唇撮聚 角舌縮却

徵舌柱齒

同云

禮書云三十六簧笙大者十九簧小者十三簧衆管在匏有巢象或曰巢笙

立簧作法

凡調也ノ音ノ舌ヲモテ十ノ竹ニ立十ノ音ノ舌ヲモテ八ノ立八ノ音ノ舌ヲモテ上ヲタツ上ノ音ノ舌ヲモテ言ヲタツ言ノ音ノ舌ヲモテ比ヲ立比ノ音ノ舌ヲモテ七ヲ立七ノ音ノ舌ヲモテ斗ヲ立斗ノ音ノ舌ヲモツテ行ヲ立行ノ音ノ舌ヲモテ美ヲ立美ノ音ノ舌ヲモテ下ヲ立下ノ音ノ舌ヲモテ上ノ音ノ舌ヲモテ下ヲ立上ノ音ノ舌ヲモテ七ヲ立七ノ音ノ舌ヲモテ凡ヲ

タツルノ音ノ古ラモテエラ立エノ音ノ古ラモテ一ラ
立一ノ音ノ古ラモテヒノ竹ラ立ナリ

調作法

先管ヨリ竹ヲヌク但長竹ヨリ是ヲヌクヘレ塗ナ
昔石脂罽差本流竽ヲ立管但短竹ヨリ立ヘキナ
リ次ニ圖ヲモテシノ竹ニ合ス 横笛ナシト
定ノ音也 圖ト同音ニ
ラモテテラ調ノ甲ニ又ニラモテハラ調ノ日
セラ以一ラ
調ノ音一ラ以下ラ調フ甲下ラ以言ラ調フ甲
言ラ以ナラ
調ノ甲日音又言ラ以エラ調ノ日エラモテ美ラ調フ甲

次ニハラ以行ラ調フ甲行ラ以ヒラ調フ日
音又行ラモテ
凡ラ調フ甲凡ラ以上ラ調フ日但秘藏口傳云凡ヨリ
猶今薇少調ナリ上ラモテ下ラ調フ甲ナラモテ比
ラ調フ甲本ニ次ニ美ラモテ已ラ調フ甲乙是モ
本ニ比之已ラ以ナラ
調ノ甲ナラ以テトラ調フ甲トヲモテ比調
甲調ヘ金
ノ寒温用意アルヘレ一説鼻ヲモテコレヲ
聞如此ノ
口傳レケレトイヘトモ委曲ニアタワス已也ノ
兩竹ハ今
朝古ラメテス六調子ニモナサレ故ナリ
斗トニ竹
ニライテハ未代名ヲ聞コトナレナセノ外ノユヘニ
況ヤ

又用^ルコトヲエシヤ而異域龍吟鳳音鸞鏡鳧鐘
断金勝絶等ノ六調子アリ件ノ調子專彼四ノ竹ヲ
用ト云

又說笙ヲ調^ル次第

シカレヲトシテ先圖ニアワスサテセラシラフ次ニハラシ
ラムシニセハラヨククシラヘフセテ次ニセラモテヘラシラフ其
一ニ下ラアワスサテサイツノハラモテ行ラシラフ其行ラ
モテ乞ラシラフソノ乞ラヨククシラヘツレハサイソノシニア
フ也サテ次ニ行ラモテ凡ラシラフ次ニ上凡ニアワス次ニ

寸上ニアワス次ニ下ニ寸ラアワス件ノ下ニ言ラアワスエラ
言ニアワスエラモテ美ラシラフ次ニウレロノ非テラハセ
ト言トノアヒタノ音ニシラフルナリ

併上聲次第

裏竹細長^凡ノ名ナリ徵太者并上高下長短ニヨテ
ナリ乞^{八寸三分ナリ但し并上ノ下トナリトノ際ノ長也}一エ凡己乙ト下寸美行斗
七比言上八寸也^{二寸}内裏^{三寸}蚬氣繪ノ并上ノ寸法ナリ
也ノ竹ヨリ乞ノ竹ニテ合次第増進ナリ也音於細
太音由并上高下也

又云并上ハ太キ竹ノハ本ニアケ細キ竹ノハスエニアクル
ナリ高古立云ハアツクオホキナルヲ云工凡一下乙七行

笙笛相竹ツアミ合事ナリ

千	下し凡	十	上乙行	下	一言七	乙	七八凡	工	美凡
凡	行美	八	美	行美	行美	乙	七八凡	工	美凡
美	言凡七	一	下乙行	八	し七行	言	美凡七	七	
行	行下	凡	美	八	千美	行下	七		
凡	千	上	丁七行八	凡	行七美	凡	行し七八	比	上
美		美	十	ユ	上	美	行	比	上

相竹畧頌曰

塞千十上下言七丁乙七八工美凡行行凡上

凡凡上一竹

師説云ク下一ノ竹ハ相竹トイヘトモ楽ヲ吹トナ

ル處ニ相竹ニ吹ナリタ、ク處ニハ不吹ニ氣三

氣ナト信處吹ナリ一ヲ吹ニ下ヲ吹下ヲ吹ニハ

言ヲ吹

笙篳篥スクロ傳

ハ子ヲ聞ニ太ケレハサキヲトル細ケレハ本ヲトル太ニラ
モシヲトル細ニハヲモシヲ、ク

サキ
モト
間

カキ上 カキ下 細ケレハカキアク太ハカキサク

管ニ立テ吹時ノヲナリ

刀ヲ指入テ面ハ子上ハ子ヲレスルニナラ、ナリセハ舌
ヲハナテ子ツキノウラヲクルナリ吹ニウナリスレ
ハ本ヲウチヘラス一竹ノウナリニハ中ニヲモシラ、ク
シラフルトキフトクテアワスニハヲトキコエホソクテ
アハスニハナトキコエ

私云當時調様前ニ注ト大略同之百物トシトノ
竹ヲスクニモヨク心ヲソヘテレツカニスキサシラス

ヘシ折マスキ事ヲ可思サテスハライトテ雉ノ
尾ハ子ヲサキヲキリテ竹ノ細ニサシテホコリヲ
可拂細線ニテヨクカラミ付ヘシ竹中ニト、ニリ
テ燠シ、事アリヌハ子ノ細カト、ニリテ音ノヒ、
ラノコトモアリサテ百蠟ヲ焼金ニテヤキテトリ
テ簧ヲスクニスヘラ蠟ノハシラス程ニヤキカ子ヲ
ヤキテ可付之シタノ上ヲ指ニテツヨク押ハシニ内
ハ入ナリ古ノモトラツヨクヲセハシニイツルコトアリ
アラケナキコトヲ惣レテスヘカラスト云コト也昔

石 俄ニスリヲコレツヒアラクテワロシスリソケタル
フ氷少ツ、入テヨクくスリヲコレテスルヘシ石ヲコ
ノ筆ニ付テスレハカケテヲツルナリウスキトシテ
ホシテ吹キリテハ又スリく三度ハカリスルヘシヌヲ
モシハ上ニヲモシハ耳白ノ錢ヲ火ノ上ニヲキテ
ヤケハナイサクフキイツルヲカナハサヒニテトリ
テコソケヲトスナリ中ハス、ヲキリヲ板ノ上ニ
蠟ヲ吹テキテ其上ニス、ソカ子ヲ、キテ燒令
ニテヲモコニカニ玉ノマウニクメケテイツルナリ

ソレヲラウツキノフクニ 蠟ヲ入加テ集テ入ナリ
簧太細ニシタカイテ可用之圖ヲ合ニ風雨アラ
カル日ノシツカナルニ 相對テ静ニ調ヘシ一管可然ツ
ツワモノヲ調スニシテ本圖ニ合テ又笙ノヨキ子
ノ調タルニ吹合ヘシ本圖ハカリニ合テハナカフ事
アリ本圖ノ吹様久ハムカハニテシタ付タル五分ハ
カリヲキテカレトカニツメテ吹ヘシク、ムヘキ要
ナリコレヲ春季ニテ用之夏ノ圖ハ齒ニテカニスレ
テ唇ニテク、ニテ牙ニアテスレテク、ムヘシコレハカ

ラヒン要ナリ 秋季ニテ用之大方此事为上御
尋アルヘキ 時毎存知ナント申サハ布代ノ者辱
アリ各可申事 如何少事 ナントモ覚悟ナクシ
テハ曲事ナルヘシコレハ冬ハ陰ナリ 陰ハヲモキ 物
ナレハツムヘシ 陽ハカルキモノナレハカルヘシ 陽ハ夏ナ
レハ知此可分別 此事如此シレハ安テトモ家ノ
口傳ナリ 惣テ望ヲ 調ノ吹 試ルニハ殊ニメシム
ヘシロニ塩ケノモノアルニ 吹ケハ石取分シノリヌルハ
ナリ魚ナントノナニクサキ又 丑辛ノ類ナント常ニ

不可食ウツリ香 以外コトナリ私ヨク調テ進上
セハアタラシキ 布紙ヲ水ニヌラシテロヲノコフヘシ
御前ニテ仕ニ 不及申具モアタラシキ 紙布ヲ
懐中セハ勿論失念アラハ 装束ノ袖ナントニテ恐タ
ル気色ニテノコヒテ可進上如ク事毎盡期此一
事ニテ萬端心ヲ委細ニツカヒテ道ノ者ハ奉公
申ヘシ新篁ニシタノウラニヨク石ヲスルヘシ

黄ノ金之事 唐金ナルニトリテ 古人申ハイツレモヲナ
シトテシマウトク音ヲ 不用金ヲトリテシタラスケハ

ヒ、キナシキナラシナントハ本ヨリ聲ヲ発ルクノミシクル
物ナレハヤワラカニテ黄ニ成ヤスク音声可然由申是ハ
尤義也

續教訓抄ニ云

抑樂ノ面白カラヌハ笙ノ時ノ音ニアワヌトキノ事ナリ
一カノモノアレトモ先笙ヲナラヌヘナリオレハシラム竹
ヲヨクくレヒキナリ 笛 篳 篥 箏 琵琶等ハフトクモ
ホソクモナシヤスシ 笙ハコノコト不叶故コレヲ本トノ餘
ノ音ヲアワスルナリ

口傳ニ云ク樂ノ早クヲホユル時ハヨソクトラヘハロメント思フ
トキハツヨクトラヘテ 吹ト云ヘリ 打物ヲカキアケカキ
サクトイヘル同シ心ナリ又始ノイキハアラクハイレスト
イヘリ又前ニモ注侍ルウカウト云事アリ 此道ニ入
ラテハシリカクシ息入事ハ前ニ住之仍略之

私云此字之事今上御誓百之時申上侍リ
始テ申上又敵 聞ニ達事ナリ字者 漱ト書也
大方譜ニ不載之兼秋自筆撰ト三帖譜ニモ不
書之可秘第一ナルヘシ受師説スハ難知事也代

六予て人ナラテハト存事之内也今度始テ
申上事内也

古人之記同物語次第不同ニ注之

或記云ク筑前守兼俊殿上ニ笙フクヘキニヨリテ昇
殿ノユルサルヘキヨレオタアリケリ先心ニシクケル日
キサキエラ 拾テフカセラレケルニ用心ナクシテフキイタ
レケルホトニ管ノ中ニヒラクモノアリケルヲ喉ニノミ入
テケリムセテエツキニトヒケルホトニ君モ臣モワラワ
レ 拾テハラワタラタケケリヲホキニ嗚呼ヲ表シテ

昇殿ノサタモトニリニケリカ、ルタノレアレハコトニライ
テヨク用ニアルヘキコトナリ 御物ノツ子ニモフカレ
サラシラハ先小息ニテコ、ロミルヘシ

中院右府 雅定 出家シ 拾テ 後 妻子ラステ、フカク

コモリ井タニフ事ナトハナカリケリタ、モトノ家ニラ
ワシシナカラノテクク 清浄ニラコナヒテスコシ拾ケル
笙胡飲酒ノ曲ヲキワメ 拾ノミニアラス公事ノカ
クノラカラス家ノ説メシカニ傳拾サハ宇治ノ死府
モ作法ナト申アワセラレケリ 勅向ニモナラアツカリ

給ケルナリヤサシクナル事ナリ應保二年九月八日豊
原時秋ヲメレテ盤涉調ノ調子ヲフカセテノチ秋風
樂ヲ数及フカセテ我モツケテツキ給ケリオア二三日
アリテイト病ヒヲワセサリケルニ廿七日持仏堂ニ入
テ仏前ニテ人ニモハカノレクモシラレ給ハテウセ給ニケ
リ時秋ト共ニ笙ヲフキ給ケルハ来迎ノ樂ニフホシノレ
ヨソへ給ケルニヤトフヨソノ人申アヘリケル秋風樂ハ西上
来迎ノ樂ナリ秋モ西風モ西ノ音ノ故ナリ

私云此事不審殊ニ末代アルニシキ事也コレモ

前生ニ法花経ヲ持テル人ナリト可知之

又云朝成卿 号ニ條中納言 能笙ヲ吹小治田有秋ノ弟子也

延喜五年正月廿二日御記云保忠笙ヲ吹ニ曲調頗

ルナラヒナシ橘皮ト云笙ヲ給フ此笙故太政大臣 昭宣公

弱冠ノトキ承和天皇笙ヲナラハセ給ハムメニ給フ

トコロナリ其後彼舊跡ヲ尋テ宜陽殿ニテ給之云云

此事前ニ注
諸記ヲ撰ヨテ書之

或記云笙ノ竹ヲ切ル事ハ一月白黒三十日ノ内黒月ニ

切ヘキナリト云リ

或秘書ニ云ク唐朝長樂寺ノ鐘ハ祇園精舎ヨリ傳
タル鐘ナリ鳳凰管ノ音アリ四方三十六里ニキコユル也
又云ク唐ニ淳丘公ト云者アリキ笙ヲ吹テ高山ノフモ
トヲスクルニ日出ク笙ヲ合スル物ノアルカ王子晋ノフエ
テヲホヘケレハアヤシキモノカトト思テイカナル人ソト向
ニ我ハ王子晋ナリ仙人トナリテ天台山ニアルナリト云
ケレハ始テ其曲ヲシリテ秦嶺ヨリシテ洛水ノホトリ
ニテ笙ヲアワセテアリサテ其洛水ニシテ仙人ニナリシ
事トモ委語テ後淳丘公カ云ク争カ又アヒタテニツ

ル事ハ候ヘキヤト申ケレハ樂伎ヲト、人ヘテ嶺山ノフモト
ヘ月ノ明ナル夜キタリ拾ヘ必ス黍リアワシト鈞束シテ
去スサテ後ニ樂人舞人ヲト、ノヘテ嶺山ノフモトニ
ワシリタリケレハ鈞束ノコトクアリケリサテ其處ニ王
子晋カ形ヲツクリテ置クニナルニ早暁ノトキハ件取ニ
シテ祈ルナレハ必雨フルトイヘリ

名物等物語
次第不同年記 前後可有相透見出シ
聞出スヲ記之

蚌界繪ハ箇ハヒテ太竹ニアラスソヒラカナル程ナリ及
ヘウスクタ、ヒトヘラヒキニワシタルヤウニテ箸ノ事ノ

外ニ廣テ竹ノ以外ニ堅テリ 良筥ノ相カヤウナルヘキ
ナリ

又云堅竹ノ筥 狭アツリタル筥トイヘリ 前ノ説ニハ
相違歟

又云大キサキ上ハ下ニ人形ノ一丁許ナルヲキサミナリ
上ニホウワラヲソキオシタル物ノ形ヲハ竹ヲノコレ
其外ヲハ竹ノ皮ヲサケトリタルナリ 帶ヨリ下ハ里ヲ
テ帶ヨリ上ハ新シキヤウナリ 吹ハ手ヨリトヒヲツル
ヤウニテ竹ノホヲラクトハタラクヤウナルナリ 其帶ハ

二寸許サカリテ廻タルカ吹レナラレテハ帶ノ下ノ竹ノ
首ニアカルナリ 心得テ吹ヘキ也 如常筥始ノ息ヲ荒ク
吹入ツルハ吹吸息ニ鼻ヨリツノタキ風ノ入テ次息盡テ
フカレサルナリ 吹ハ始ヲコレラヘテ吹ヘキナリ

又云二條殿ノ小蚪タカ繪ハ只刀ノオキニテカキタルトイヘリ

江談ニ云ク小蚪タカ繪ハ高名ノ筥ナリ 一条院ノ御時此
竹生夫畢仍カクク 祈請サラル、向五七日アリテ御
湯殿ノシタニアリ見付テ 御覽スルニ空ノ以朽畢仍
サ、切畢其後尚其声美ナリトイヘリ

又云キサキ六累代ノ寶物ナリ神靈アリトイヘリ而
保延四年十月廿四日工御内裏ノ燒亡ニ燒了

蚪界繪篋啓事

堀川院ノ御時寛治七年七月十四日始テコレヲカヘ
ラルソレヨリサキニ此名カヘラレタル例諸家ノ日記ニ
不見ト云リ上百ヨリ不改テ古キ名ノニニテアリケルカ
公里時忠時元等勅ヲ奉リテ藏ス所ニテコレヲ調フ出
納ヲ召仕ト云ヘリ古カハリテ後音聲失了又主上
驚ヲワレシテ此事ヲ向セ給フニ時元敢テ左右ヲ

申サス公里申テ云新キ名ノシテワサルホトノ事吹和
ケラレナム後ハ本ノコトクナラムカコレニヨリテ藏人ホニ
給テイツトナクフカセラレテ次ノ年ヨリ本ノコトノ音聲
出未リタリケレハ主上公里ヲ殊ニ御感アリケリ其次ニ
美作へ下向ノヨシヲ奏シケレハ一物ナリ船ハ慮外ノ事
ニ恐アリ陸地ヨリ下向スヘシトソ 敕定アリケリ道ノ
重ク思食ス事タメレスクナキ 御事也
江詔ニ云ク否不替ハ是 笠ノ名ナリ 唐人コレヲウルキ
石ニカワントイフニイサカヘシトイヒケレハコレヲミテ名

トムトイヘリ

禪定殿下ノ仰ニ云ク法華寺ト云笙ハ名物ナリ此
笙ヲ華山供養ノ行道ニ樂人久延カ吹ケルニハ笛モ全
クキコヘリケリ件ノ笙能箏カ傳テ後堀川院凡
テ交丸ニツクラレ畢

讀教訓抄云

又云交丸新交丸兩笙ミナ豊原ノ家ニアリト云ヘリ

タレカ流ニツクフルソヤ當時キコヘス此事不審當家注
タル物ナレ

新交丸ハ時元和唐ノ竹ヲ比テ交丸ヲ移レテ作之

其音太妙ナリ 藍ヨリモ青キ 舩ナリトソノ後ニ傳

リテ中院ノ内府 雅定 許ニアリ

小唐笙ハフルキ名物ナリ

菊丸ハ大納言隆季家ノ笙ナリ而テ隆保朝臣傳テ
後不慮ニ梶井宮ニ進ストイヘリ

懷丸ハ大宮三位重家秘藏ノ笙ナリ懷中ヲハテス
故ニ名トス

下腰一管ハ光元カ笙ナリ公直傳之

袖丸宇治五大臣殿ノ笙ナリ凡竹ワツカニ九寸直木

東帶等ノ袖ノ下ニカクサレシカクメナリ 仍名トス
或記云天曆年中ニ元興寺ノ寶藏ニ高名ノ笙ヲ修
理ノレウニウリケルヲノサレテ義作カ御講經ノ座ニ
候ケルニ主上置ヘクヤイナヤト御尋アリケリ義作申
テ云ク彼カウラント申サレシニ一倍シテノスヘキヨシ申
或請或不請云其名伊余可倍歎又雲和歎ト云
石唐丸ハ高野御室ノ御時仁和寺ニ大先達アリ仁
仙房ト云大峯古屋ノ宿ニテコノ竹ヲ切テ御室ニ
イラス此竹ニテツクルユヘニ為名事シカナリ

達智門ハ高名ノ笙ナリ 此笙ノアタヒヲモテ其用途ニ
アテ、件ノ門ヲツクル仍此號アリ古記載之
私記云右之説真也ハ幡殿御代ニ出現蓋ナリ傳云
六七十歳ハカリノ法師此蓋ヲ持テ義家ノ器ヲ御尋
アルヨシ承及向笙一管持參申ト申御覽アリテ
時元ニミヒラル取勞之間私宅ニテ見之テ無雙ノ器
ナリイカ程モ可申ニアタヒヲカキラスメシト、メラル
ヘシト申仍代ヲ被尋此法師ニ万貫ナラハウルヘキ
ヨシ申義家ノ思食様ノモノニアラスオラハノスヘ

キヨシ 御定アリテ 要脚達 智門ノ為ニラカセラレシ
二万貫ヲ可被汲由ナリ然ハ器ヲ進置ナリ 要脚
明日取ニ可参由申入テ去ヌ召返レテサテモ此器ハ
メレカソヤ又イツノヨリ来フト 向給ハ播磨書寫
山ヨリ持参シ侍由申テ 帰ヌサテ明ル日モ取ニ不参
其一、ツ井ニ要脚ヲトラス 不思議ノ事ナリトテ時
元ニ被仰自テ書寫ノ聖へ人ヲツカワレテ此事ヲ被
尋處ニ更ニ當山サヤツノ器ヲシ又持参僧トシト
申スサテハ八幡ヨリ給之ニヤト思食テ其要脚為

御修理則ハ幡宮へニイラサセ 給則 ウツホ丸ト
号シ 給テ武勇ノ器ニ被用之テ 悉天下ヲ静給
御累代ノ器トシ 給ト云々 音声スクレタリ 又不置
丸ハ豊原光元カフエナリ 時トシ 不置之故ニ以テ俗
光元カ 不置丸ト云
或記云ク昔漢家ヨリ昔ノ石三ヲ渡ス 其内下恩ノ
石一ヲ時光カ 先祖ニ 給ケルナリ 御物ノ石ハ 惡ノテ
此 給ル石ハ 日出キナリト云々
或人ノ 談ニ云ク 時光公家ヨリ昔 石ヲ預 給ノサレ

テ物樂ノ時ハ用之死去ノキサニ嫡男公里ユツリ了
又爰ニ男時元訥申テ云ク彼石大略公物ノコトシ
御樂ノ時若公里ノ故障ノ出来リタラハ嗣如及
ムカ彼ヲニニ破レテ兩人ニワカクセント思フト云ク即
敷許アリテ破ル處ニニニ破畢又其内公里ニ破ヲ
給了光元カ代ニテ傳之持之時元一破ヲ給ハル
利秋養子時秋カ手ヨリコレヲユツリ傳トイヘリ
光元カ持トコロノ二果定テ分テ子息兩人ニユツラム
歟公秀公直ニ相當ナリ但シ今ノ世ニテコレヲ不傳歟

又云一切ノ管 弦ノ器ハ金截タル音ヲ美トスルナリ而ニ
篳ノミコソハラノト鳴ハ美ナシ但シ其モ金截テ聞ルコソ
目出ケレ

又云篳ハ息ニヨルトイヘトモ又 篳ノ一物ハ別ノ事ナ
リ出雲ノ前司隆頼カキリケエ給ハリテ吹ケル日ハ
息ヲホカリシ人々ノ篳全ク聞ヘスコソアリケレ彼隆
頼極ル少息ノ人ナリ

又云白川院御在位ノ時公里ヲ召テ大丸白加波ト
云御フエニヲ給テ勝劣ヲ定申ヘキヨシ仰アリ

公里申ラ云ク勝劣候ハス只同程ニテ候ト申仰ニ日ク
御物ニテ持テ改長ノ許ニ行向テ定申シムヘシト云ク
公里ヲ御使トメ彼亭ニ向テ此申シ申改長数度
コレヲ聞テ全ク勝劣ヲワカストイヘリ公里何カニ
答テ日ク御前ニシテ如此申ス而テ猶御不審ニヨ
テツカハサル、ナリ時ニ改長答テ云ク天気イツレラモ
テ勝ト思食タルノ公里云ク太丸勝テラホシノセハコ
ソウメカハレク御スラメト申仍改長太丸ヲ勝レタ
ルヨシ奏ヒシノ了又天気符合ストイヘリ

其後堀川院ノ御時ニ公里ヲ召テ同ク勝劣ヲ向シメ
給フ申處前ノ如シ取ニ逸物ニ候太丸ハ偏ノ音勢ナ
リ白加波ハ音勢ハ大音ナラストイヘトモ誠ニ物ノ申
フ通テ清ル音ナリ太丸ハ音勢アリトイヘトモ白加
波ニ相比ニ白加波ハ音勝テ聞ルナリトイヘリ尚白加
波ハ勝ト申サレムル歎而ニ救業ノ時御物其数業
人ニ給公里北時白加波ヲトラヌ太丸ヲ給天気日比ノ
白加波ヲ執ス此太丸ヲトルイロン公里陳申云
白加波ハ竹ノナラヒナキ逸物ナリ仍勝トソ申

ナリ但し太丸大衆ノ夕ノ音ノ善悪ノイワス音勢
ヲトルユヘナリト云々

禪定殿下仰ニ云ク笙ハキサキエノテタカリシモノ
ナリ其ニミヲトラスヲホヘシハ太丸ナリト云々
時元語ヲ云ク武吉カ許ニ下女笙ノ管舌ナキヲ持
来テウル武吉向テ云其直イカハカリノヤ女ノ云ク
直法ヲレラス只給ハラシニシタカワント云凡箱ニ足ヲ
アタフ女悦ヲコレヲ取テ去リ武吉コレヲミルニ誠ニ
毎雙ノ笙ナリ仍其直法ヲ加ヘムタメニ件ノ女ヲヨ

フ女笙ヲ返サムトスルソト心得テ身命ヲステ、
ニクルヲトカクシテ召返セリ女ノ云ク上臈ハ思カ
ヘレセヌモノト云テ類ニウラム武吉カ云クカヘ
サムトニハアラス直ヲナサムトテナリトイヒテ
今ニ足ノ与畢又女悦ヲ去畢又件笙調テ後誠
其直法ヲレラストイヘリ己ニ御物ニナリテ傳リテ
院ニアリトイヘリ其名ヲホツカテ可尋之

私云古事末代ニアリカタキ人ノ心サナリ

今世ニハ如此ノ物ヲクマスキカヒトリテハ我
高名ニ云フ悦コトニキリナリ大方世ニアル者
ノ誰モ利潤ハ大切ナルモノナリ自然服食衣ノ
類ハ久不用コトナレハヨクニイヒトルモ心アサシ
又ハ庭ノ草花ナント鳥獸スキテカフ人ノア
ナカチニイヒ合テヨクカニシキハサシテク
ルシカラス其サヘ他事ニツイテ其ノ人ノ心
サニミユル者ナリニシテ代ニ傳へ上ノ御物ニ
ナリテ重宝トイワレニ類ヲイカニウル者又

持タル人不知メテモクレウルヘキナント云ラ
イヒケレテ其物ノ代ヨリモケニカクニカヒトリ
人ハイツツラニ只人ニ期望ナントシテウレシク給
タルナントハイワスレテ目カキカ又人ナリ世
ニホウケタル人ナリナント云テ我トクヲ
云人アリアサニシキワサナリ殊ニ笙笛ナ
トハ竹ニアタヒラシツケテモナキ物ニテ
只音声ノイカメシキヲ上中下ノレテニシ
テ世ニウリモカニモスルモノナリ誠ニスケレ

タルヲカヒトリテ永ク家ノ重珍ニトスヘキ
ハ高名ナリ若身ノホトモアリテアタヒラカ
キラス引 本物ヲモシ侍ハ其器ノ名譽ナルハ
シ若身ノ徳ナクハ其主ニ心中ヲ云キカセテ一
朝生ノ向 其恩ヲ不可忘也如此ノ心アレハ家ニ
冥加アリ道ニ至テモ不慮ニ高名アル事ナルヘシ
万ニ心サレノユウニ無理アラサルヲ見習ヘシ他
人ハトモアレ子孫ノ者必如此事ニ心ヲツカヒ正
直ニコトラスヘシコレ随分ノ教訓ナリノ

神祇伯頭仲ノ云ニ条殿ノ白丸ハ極テ固キ筥ナリ
御遊ノ時給テ吹シカハ誠ニ息カタキ筥ナリ葉内ヲ
シラサル人ハコ、筥トソ志サスヲ實唐筥ナリ節
高キ筥ナリ節ハ廻テ同高ナリ

公里云ク時光カ申シハ件ノ白丸ハ高麗ノ竹也代ノ
ホニ申アヤニリスナトソ云ケル
又云武吉ツクリノ一丸ハ修理大夫俊綱朝臣ノモト
ニアリ此筥ヲ白丸ニ相似タルト云

件ノ筥御賀ノ借物ニテ時忠給テコレヲ吹其舌ヲ

フキヲリリ時元コレヲ見テ不覺ケニコノシケル
實ニ不覺ノ事也

二九ハ三宮ニアリ変黒ト云々但シ一ノ竹ハ尚白トイヘリ
私記云永正六年秋之比將軍家一管ノ御
器ヲ被召置後ニ予ヲ召テ是ヲ見ヒサセ
於御前是ヲ拜見ス言語道断御器ナリ
奇特由甲上簧百物ニテ一向ニ不被吹試新
器ナキヲ被立替テ吹試度由ヲ申上充之由被仰

下然ハ私取持簧今度南都行元ニスカ
シタルアリ御器ヲ被下可調申歟由申上則
被出之向私宅ニテ調之仍竹ヲノコワセ侍ハ
字ヲホリツケタリ能ク見之者公里秘藏
ノ器ナリ永ク家ニ失ヘカラサル由書付不
思議ノ由申上テ調畢テ進之公方様
ニモ御自愛ノ由被仰下音勢勝タルコト
名物ニラトルヘカラス此器ヲ先中御門大
納言 宗 迷 御申アレハ近此ノ御器ナ

リサレトモ美ノ竹一ツ別ノ竹ニテ色替ヨシ
御申コレカ疵ナルヘキカトノ御沙汰ナリト畢
予ヨク見侍ハ節モ同スアヒモ同シ又竹ノ夕
ラモ同フルサナリ只向ノ色ナカ井タリ己ハ音
モ同カルヘレト存スル也ト申上侍爰ニ私記
録ニニサニ見及タル取アリシナリサレトモ卒今ニ
ハト存當座ニテハ不申イカサニ名ノナキ事
ハアルニシ漚分尋可申由ヲ申上畢是ヲ當
今キコレナレテ叡覽アリメキ由内々被仰

下由ヲ申上處ニ召進上之以外之御叡感
ナリ暫ラカレテ可被遊由ナリサヤウニ思食
サレ上者黍御事也イカヤウニモ被召置様ニ
統秋可申沙汰由以叡阿被仰下其仰則
可披露申由申上折節御誓古ニ被召應向
祇候仕將軍家御申旨申上サテハ神妙之
事ナレトモウツハモノアニクモ毎御座ク毎骨ナル
様ニ被思食由勅定アレトモ統秋イカヤウ
ニモ申成テ御物ニ秋成様ニト仰旨皇ニ申

上之向サハ御返事ニ一段御秘藏アルヘシ
名ヲ被付名物ニ可被入由御申アリ仍而
私カ記ヲ擇右ニ注取明白ナリウタカウヘカ
ラス此器者三宮輔仁親王御器変黒ナリ
竹一白ト侍不審ナキ取ナリ則記取上意
御覽アリテ不思議由被仰下奈者也内
裏ヘシ此旨可申上被仰下即御月次之
御樂時以中御門大納言殿申上充御自
愛ノ事擇申入神妙由被仰下家回目不

可過之此記者續教訓抄也可仰可貴之
時元云ク笙ノ息ハ此歳ニテ定ルナリ而テ其已前ニ
横笛及ヒ篳篥トトラセノフカスルハ中ノノ息カ
レフスルナリトイヘリ
後一條院ノ御時雲客 貞長 笙吹ノタメニ御参中宮
夜ノヲトニ御ス貞長ノ召テ笙ヲ吹ヘキヨシ 物アリ
仍アサカレヒノ御座ニ候テコレヲ吹御感アリテ
宮ノ御衣薄色ユヲ貞長ニ給フ即給テ家ニ歸テ
時光ヲ召テ我妻ノ衣ユヲモテ時光ニ給ト云々

又云時光ハ時信カ弟子時信カ實子家ノ説ヲ相
傳ストイヘリモ弟子時光ニヲヨハス仍關東へ逃
失畢

又云時光ハ大聰敏ノモノナリ時信ニ隨テ曲調ヲ傳
トイヘレモ全ク委曲ノ口傳ニヲヨハス只聰敏ニテ悉
ク聞取ナリ公里ハキワメテ遲鈍ニテキ、トル事アツ
クス只聞テ我ヤウニキ、トレトモソケレハウルトコロ
十ガ一ニヲヨハス恨ラ笙ヲステ、繪師ニナリケルヲ
時光心ニイレテ唯人ノ吹ラキケト云ケレハ又笙ヲ

吹畢又カレハ公里鈍根ニテ委ク習タレハ人ノ師ハ
神妙ニシケルナリ

又云時光武吉則光公里四人一時ノ笙吹也

教樂アル時左時光石武吉也而時光早世ノ後宣

旨ニヨテ上臈二人ヲ超テ公里ヲ左一ニ立テル是其
氏ヲ賞セラレ、ニヨテ也公茂ハ公里カ一男タリトイヘ
トモ最末ノ笙タリロラシキ事ナリサテ公茂カ子
光元ハ明暹己講ニアヒテ横笛ヲモテ渡シ傳タリ
又云公里時忠又其様異ナリ公里ハ面白クアサシ

ノ吹時忠ハ竹多ニ勝幸ク吹兩人ノ吹ヤウ相違
シタリ

又云時元ハ先公里ニテラヒ次ニ時忠ニテラフ時忠カ
荒キ取ラスキステ、公里カ直キ物ヲ加テ吹テリ
仍時元ハ公里カ流ニアラス時忠カ流ニアラス則
頭ニテアリケルテリ

又云時忠ハ笙ニ竹一筋ヲスキステ、吹ニスカサレ時ト
同シヤウニ音扱ヲアラシム也調子ニ風情ヲ吹副
トイヘリ是調子ノ法ニアラス又アタラシク調子ヲ

撰テ三宮ニ進ス怒ニカキノフトイヘリ是彼大ナル
過也

又云或人時光ニ向テ云ク公里ト時忠ト勝劣イ
カム時光答テ云イカハ^{アラ}初ヲ折ムト云時人是ヲ
聞テ會尺シテ云公里ハ四十余年父ニソヒテテラ
ヘリ時忠ハ幼少テリトイヘトモ大聰敏ヲ愛シテ
云歎

又云時元カ入調平調ハ公里ニ習ケリ大食調ハ
時忠ニ習也

筑教訓抄

人云時光カ弟子三人也伯康資王筑前守兼俊刑部

丞源義光也而ヲ時光カ云ク代ノホニ人ノ師トシテ

善思ヲ聞知ニハ康資也残ノ輩ニツイテハワケス是

傀儡ノ笛トソ申ケル其ノ故ニ師ノラシヘル手ヲ意

略ニ吹也シカリトイヘトモ康資ニモ入調ラハラシエ

スヨク秘シケルナリ

又云時光カ笙ニハ三ノ説アリ一ハ公里ニオツクル説常

ニ云ノ春ノ柳ノ如ク吹ヘシト云々ニ三時忠ニオツクル説

常ニ云砂ヲトリテウ格子ニウ扣カ如ク吹ヘシト云々三三侍

從宰相ニオツクル説此説ニツイテハ公達ノフカセ給ヘキ

ヤウ也ト云々

師説云ク中院云ク我笙ハ本意ヲトクル事アリ

堀河院ノ御時本院ニ行幸御遊アリ御笛始度アリ

政長朝臣御侍讀トシテ笛ヲ吹琵琶ニ條南白殿箏証信公

宗俊卿和琴中宮大夫師忠箏策敦家今日論言ヲ

奉テ笙ヲ吹先達宗忠有賢等ヲヲキナカラ後進

ノ身トシテ清瑛ニ應ス豈白目ニアラスヤ其比政

長云ク多年殿下ノ笙ヲキクコトナレ今カクノコ

トキノ笙イテキタル奇持ト云ヘシトイヘリ
又云ノ公里常ニ詔テ云 調子ハ底ナキコトナリ 時
光ニ四十年ソヒテナラフトイヘトモ全クチカララ
ヨハオルコト等ヲ、シトイヘリ

又公里カ云ク笙ノ調子ハ元年ニ吹得ルトイヘリ而ニ
時忠ハ六年ニ調子ヲハ習也 故院ノ師ニ云ク時忠ヲ
ソロシキ男ナリ六年ニイカテカコレホトニ調子ヲ習
ケントソ仰ラレケルナレハ調子ハカキリナキ大事
ナリ

或秘口傳ニ云ク笙ノ調子ヲ吹ヘキ事タトヘ
フトリテアラハセリ

平調ハ 如鐵木石銀枝金葉可吹也

盤涉調ハ 如秋野萩女郎花風吹敷可吹也

一越調ハ 如以金沙石打金鼓可吹也

金調ハ 如欲登榎柱可吹也

黄鐘調ハ 如山河水通石向可吹也

大食調ハ 如榎屋玉叢叢々ニ雨渡可吹也

續教訓抄

或書ニ云中比ノ筆ノ師ニテ東市伍時光トキコヘシ
カ何ノ御内ニカ内ヨリノレケルニ同シヤウニ老タ
ルモノト回暮打テ奇ウタウヤウニヨリアワセ
テ大方聞モ入ス御返事モ申サ、リケレハ御使
アサケリテ返リ奏テカクテ侍ト訴ヘ甲タリ
ケレハイトアワレナル事哉唱奇シヌレラ万ヲ
忘レタルニコソアテレ御内ノ位コソ口借ケレサル
メテタキ事ヲ行ラモエキカヌトソノ給ハセケル茂
光トイヒシ筆筆ノ師トヲクリ累頭樂ヲ唱奇ニ

レケルトソ後ニハキコヘケリ

又云エ御内太納言宗俊ハ時光弟子也大食調ノ

入調ライニクトテ歳ヘテラシヘ申サ、リケルホトニ

五月ノ廿日ア、リ雨カキリナクフリテクラカリケ

ル夜イテキテコヨヒカノモノヲシヘメテマツラント

申ケレハイフカリテトクトソ給ケルヲ殿ノ内ニテ

ハラノツカラキク人モ侍ニ大極殿へ渡ロ給ヘ、イ

ヒケレハウラハ牛車ナント、リヨセテヲワレケルニ御

トモニ八人侍テアリナムトテ時光ヒトリトテミ

ノカサキテナムアリケル大極殿ニヲハシタルニ猶ヲ
ホツカナク侍ルトテ續松ヲトリイタレテ更ニ
火トモシテ見ケレハ柱ニミノキタルモノ、夕ナソヘ
ルアリケリコレハ夕レソト向ケレハ武吉トナノリ
ケレハサレハコソトテ其夜ハラレハ申サテカヘリニ
ケルト申人モアリキカハカリ心可シアリトテ
ラレヘケルトモ聞ヘス侍リキノレハヒカ事ニカ侍
ケニ

彼武吉モ其道ノ上手ナリケリタレニカラソレケ

ムノ人ノ夕レニナラヒタルソト向ヒ給ケルニ道ノモ
ノニモアラス法師トアヤノヨクナラヒタルモノ、
アリケルニナム傳テ侍ト申ケレハ猶時光カ身
子ニナルヘキナリト仰ラレケレハ仰ラウケ給リ
テ彼カ家ニ至テソレカニイリテトイワセケレハ
トシコロカウニモ不見モノトテラトロキラヨヒケ
レハ時光ハフエツクロヒテ井タリケルニ武吉庭ニ井
テノホラサリケレハ袖ノハタヲトリテヒキノホセテ
イカニト向ケレハ殿ノ仰ニテ御弟子ニニヒリタル

ナリトイハイト心ユキテナニヲカ習給ヘキト
云ニ大食調ノ入調オムニクシラス 物ニテウケ給ム
ト思ヒ給ルトイフニケレキカワリテ太郎ニテ待
リケル公里カニヘテリケルヲ 此童ニラレ侍リテ
後コソコト人ニハサツケタテニツラノコレハ 忽ニラ
ホレヨルニレキ事トイヒケレハ 此君ツクヘラレム
事忽ノコトニハアラシトラ名符トリカヘシテカヘリ
イテ、歳ヘケル後ニにフカノツカ、ヒテキカムトス
ルナリケリ音ノモノ、師ハカクナムニラカクタツマ

スクモセサリケルナリ
此武吉待從宰相ノ内ニシコウノ人ナリ 彼武吉
申テ云ク大食調入調ヲキカテヤ、ニ候オムスラ
ムトイヒケレハ年来キ、イレラレスシテスキ給アヒ
タ又申云ク時光ニ大食調ノ入調ヲカセシクテ武
吉ヲウタシテキカセサセ給ヘキ切ニ申ケレハ時光
カニイリタリケルナリ武吉ヲ宿衣ノシメニカクシニ
シクテ入調ヲキテキカセヨト仰ラレケレハ 時光申テ
云ク只今武吉オトマ殿内ニ候ラムト申ケレハナシト

仰ケル仍大食調ヲ音取ノスラニ吹テムトスルトキ
宿衣ノスソヲアラ、カニヒキノケ 給タリケレハモト
トリハケタル男ノヒンハフククトシテアセシツニナリタル
モノヲ、レイタシ 給タリケレハ 時光モアサニシケニシ
モヒ武吉モ我ニモアラスカホシテアキレテソリケル
カタナハシリテニケニケリ 時光イカナル事カ 候ラ
ムト申ケレハ宰相ノタニヒケルハ年来此男ノ時光ニ
入調フカセヨキカムトセメツレハ心ヨワクフカセテキ
カセント思テアリツレ氏ステニフキテントシツレハナラ

思ニ不便ニハフクロクヲホヘツレハラシイタニツルナリ
トノノヲニヒケル、
又云公里ヲヤノ 時光ニ大食調ノ入調ナラヘルニ時
光ウセテ後 其入調ノ中ニヲホツカナキ事ノアリ
ケレハ心ウクヲホヘテ 内ニナケキテスクルニ夢ニ時
光素向テ申云ク 件ノ取ヲ兩三及吹テ此定也ナ
ニカナケクソト云 其由カキタル譜ナトウセタリ夢
ニミヘケル定ニ書タル譜ハ伯頭仲朝臣傳タリ 其夢
ノ次テニ時光 申云ク公里ノ命ハ七十二ニテソアラシ

又ルト云ケル公里常ニ申レニ七十ニテウセニレカハ
其夢ハニコトナリケリト世人シリニケリ時光ハユメニ
ハ玉ノカフリ七十ニトソ申ケル

又云大食調入調ハヨクく秘藏セシムル曲ナリ時元ハ
親ノ時光ニハトノラクレテ時忠ニソナラヒケルナラハン
トテハ時忠ニ同兄ト云ナカラ後者ナトノヤウニツ
カワレテヨクく久クアリテソラレヘケル時元時忠ニ
フツクイヒケルヤウ今ハ君ヲコソ親ト頼ミメテニツ
リテ夜晝ツキタテニツリテスクルニ此曲ヲレラテ

候ワニハイキテモムヤクノ身ニ候一及フキラ聞セサ
セ給ヘトナクく云ケレハ時忠を道理ナリトテ教ヘテ
ケリ扱今ハ吹^ケキカント云ケルヲヨクフニカニウケタメ
ハリヌトテ時元不吹ト云クアヤレキ事ニナヒテ時
秀モ常ニ申ケルナリ

公里ヲ申ケルハ平調入調ヨリモ大食調入調ハ秘物
ナリトソ申ケル

時光云ク公里時忠カ笙ハナラニヲトリニナラヌモタ
ハアツコソラシトソ云ケル公里ヲハレロキ子リイト

ヲニホヒ目出ムヲコニソノタルヤウニ吹時忠ヲハカミ
障子ヲ小石ヲニキリテツヨク打様ニ吹ト申ケレ
ハ公里申云クヨキ事ハ一ニコソアレ兩方ニワカナテ
吹トアルハイカニト云ケレハ時光云ク仏ノ、リトキ
給ヒ人ノ気コンニシクカヒテトキ給也各カニサニフ
ミテカヤウニハ云也トノ申ケルサハ是時光モエワカ
ナリケル也

三宮卿ニ云ク笙吹公里申云ク時元ハ笙ニソニ説ニ
吹ハタカサラミミテクララハサメル様ニテワロシソニ

説ツケテ吹モワロシト申ラ公里トモテ云ク此事ニ
得ス一方ニモツカスソニ説ツケタルワロシツケヌモワ
ロシトアルハイカニト向ケハ時光返事ニ云ク笙ソニ
説ハヨキアシキカアルヲヨキラツケテ吹ハツケタルヨ
シワロキラツケヌレハツケヌカヨキ也トナシ時光ハ申
ケルト時光カヨキソニ説ワロキソニ説カキタル譜ハ公
里カ進上畢時光ハ侍從宰相殿ニ調子ニ公達フカセ
給ヘキヤウトテ雙調平調盤涉調此三調子ヲ、
シ奉也仍具手習傳テ香宮大夫殿三位殿吹給

レナリ 件年ハ時光子トモミモ不傳仍時忠ハ三位
殺ニナラヒ奉ル也

又云時元本ヨリ天性カシコク日本度者ニテ我不知
樂ヲモ横笛ヲ吹ニ付テ能知タル樂ノ如ク吹モノ、
ナラモクルヘキニ出同ナリ諸ノ樂ヲナラヒラカ、モ
ラカケテヲホヘテ吹レ也
流教訓抄云

或云昔ハ万歳樂ノ中ニ盤涉調音ヲ吹取ノアリケル
今世ニハ吹カズヒナリキニハ未吹之也ト云々彼家ノ輩
ニツツヌヘキラヤ

豊原利秋云ノ日吉社奉末日御供之時列ノ人
必ス馬上ニノ鼓 笛ヲ奏ス其音 頗ル安樂 監ニナリ
時忠コレヲキクニ笙ニ和 漢ノ竹アリ優美ナリ仍彼
列ノ人ヲ一子キテ他ノ笙ニ相傳シテ善ヲヒロヒ庶
ラステ音声ヨク調フル唐竹アヒニシワルユヘニ交
九ト号ス自愛シテ数年アリテ内弟刑部丞或兵衛
尉源義光ニ傳フ此説不審五管ノ名物ノ交九ニハ
アラシ新交九ト号スル笙アリト畢右其事歟
又云時元ハ宗俊卿ノ弟子也彼卿早世ノ後遺徳

ヲ憇ルコトヤニスツ井ニ夢中ニ謁スル事ヲ得テ勇勝
破ノ秘説ヲ傳フ今ノ世ニ是ヲ時えカ夢説ト号ス委
ハ彼樂ノ所ニ載之

又云保延三年正月四日朝覲行幸ニ輪臺イラン
トシケルレキ互樂行事ニテ大炊御門ノ右府ノ中
將トテヲワレケルカス、ミマイリテ輪臺ノ墻代
ノ笙吹雅樂屬清方左近將曹時秋音取相論ス
ルヨシ奏ヒラレケルハ殿下法性寺殿院ニ申サセ給ケ
リ院ヲホシメシユルヨシ仰アリケレハ殿下左大臣

花園ニツツ子申サレケレハ左府仰ラレケルハ笙事
外ニ膀胱アリ先例官ノ上下薦ニヨラス晋代ヲ
エラヒ用ラル事也清方ヲ用ラレハ笙ノクメキタナ
キ事也ト申給ケレハ殿下此由ヲ樂行事ノ司ニ仰
ラレケリ是ヲ聞テ中院左大臣ノ大納言ニテヲワシ
ケルヲハシメトシテ悦ノ人ニ多カリケリ仍時秋理運
ナリ彼左府ハ時秋カ弟子ニテエンヲワシニシケル故也
延喜ノ御門ノ御時内裏ニ笙笛竹ヲウヘラレタ
リケルカ笙ハヲサナクシテトコロクニヲイチアルヲ

御覽シテ并中書王兼明親王延喜ノ御子也ツ

クラセ給ヘル

逆竿末抽鳴鳳管

ツハノノルノクカンハイニク鳴鳳ノ管フスキイテス

盤根遠點卧龍文

ワクカニル根ハワツカニ卧龍ノ文ヲ點ス

或説ニハ中院雅定ヨリ笙笛竹ヲ取望シ申サレタ
リケル御返事ニモアリ中院右大臣雅定ハ笙ノ上
手也時元カ弟子也スコレモタカヘスウツレ給ヘルトソ交
丸トイフ笙ヲモ傳給ヘリ交丸トハ唐ノ竹和ノ竹
ナトノナカニスツレタルヲアラヒテツクノラレタルトナシ

交丸ト云笙ハニツ侍ケル本ノ交丸ハ三国ノ竹ヲ以テ
造時元カ兄ニテ時忠互ニツクリツクヘ侍リムラトイヒテ
イナリニツリナト云マツリワタル者ノ吹テワタリケ
ル笛ヲモトキリトナル竹ノ交テ聞ヘ侍リケレハ機
教ニテ時忠ヨヒヨセテカ、ルハレニハ同クハカマウノ笛ヲ
コノ吹ノトテ我笛ニ取替テ我ハニシリタラニ後ニ
取替ニト云ケレハムラノ者悦ヒテミテ見シリ給ヘ
リタリトテ取カヘタリケルヲスケタルヒ、キ有ケル
竹ヲスキカヘテエナラヌシラヘタテ、給ヒタリケレハ

ヨロコヒテ返シエテ十二侍リケル其交九ハ時忠カ子
ノ時秀傳ハ侍リシヲ子モ侍ラサリシカハ弟子ノ
義光傳之給ト畢

或記云ク堀川院ノ御宇ミナ月ノ十日餘リノ事
ナリケレハ草モユルカテ日ヲリテアツキニ内裏ヨ
リ御使アリテ急キ参ルヘキ宣旨アリトテ時
元カモトラ尋ケリ何事ノ御用ニカト心ノ中ニハ
思ヘトモイソキ参上スヘシト申セトハカリアリテ
御使ハニカリ帰リヌ時元装束シイテ夕ケテハ

セニイリス神妙ニニイリタリ近ク参ルヘキヨレ仰
イタサレケレハ御ツホノ内御前近クシキカハエリテ
シハラク候ケルニ童テ宣旨アルヤ夕今日ハコトオフニ
アツク思召スニヨリテツクリ泉ヲ御前近クニツ
ケラカレメ給ト云ヘトモ中ニ水上ノ流御心ノ内ヲ
スシクナシタテニツラスイニレヘ云ハル事アリニシツ
カナレハ身モシツカナリト云ヘリオキカセ給ハムニス、
シカリスヘカラム曲ヲハカラヒテ一曲ツカニツルヘシト
仰出サレタリ時元カレコニリツケ給リテ御心ノ

内ノス、レクナラセ 給ハンハ盤涉調ニコソト業シテ
盤涉調ミ子ヲソヤ、久クツカニツリケル後調子ハ冬
季ニカクトル水ノ音ナリケレハ殊ニ日出度ツカフニツ
リケリ則主上ノ御心ス、レクナラセ 給ニケリ御感
アリテ禄ニアツカリテニカリホニケリ高名トノ申
アヘリケル

私云先祖ニカレ仁アリ其子孫ノ者トノムケ
ニ如此ノ仰アリトモ此心ハセアリカクレ但樂ノ
タニモヨク覺タラハ又オノミ昇下スヘカラス唯

上代ニ生ナリニ事ヲナケクヘシ方ニ此心仕ハ
ワケルヘシ心ノレツカニテ暑氣ヲオンスル事ハ
前ノ卷ニモ載之侍ル也

笙圖沙汰事

弘長三年五月九三日 寅 參龜山洞自昨日如
法廷供花當番也着淨衣晝夜令勤仕也十種
供養笙可勤仕而近世伶倫笙圖皆細予一人
大圖也相違如何之由沙汰出来為皇太后宮大

夫師經卿奉

今度御經書寫之衆也
上皇與此人交僧徒又一向被奉行人也

有御向合予申云近世笙圖皆以細其故者以

笙二者左近將監豐原近秋為諸人之師近○

圖也彼近秋昔多好節子為豐原忠秋之猶子

不傳秘曲并本譜等祖父利秋之時以本譜圖

青石等讓進故猪熊大殿又進子息秋範

非樂人為

拓勤者為調御笙也後任五衛門尉

彼大殿器量按群曲節今寬

頗恰故也仍彼等之圖難取信予相傳曾祖父

大納言

宗一

圖聊太從近之圖故大神景基

橫笛

埴能每此類之仁也

來談云笙圖皆以細之間為橫笛每

術之次第也此圖適音通也充可被用之也予

合云此圖非師匠中將入道敦通之相傳又故

大納言每注置旨只笙一管本譜圖石等相殘

許也不知是非為之如何景基云猪熊殿祇候

笙調秋範者相親者也故利秋者為景基之外

祖父之故持向北圖可合試彼圖也仍即持

向吹合之處利彼御圖太從此圖折中之樣充

可宣之間令諷諫之間于今取用來也無此子

細者如彼等圖令調合之各有所煩哉就中當時笙一者持監好秋来○笙圖細罷成事子細分明也世人不知之在百具詔

順德院御宇太原前僧正卒參童舞石備叡覽

事

兩度也其
次度云々

兼日笛一者左衛門大夫大神景賢

招故忠秋之處依取芳著遺好秋也景賢相詔

云喘息所勞持病也老後速也相侵爰年来取

持之笛雖吹能聊圖細内々欲令調合相親向

也

忠秋之妹者
景賢妻室也

共為笙笛之一々旁依得便樂

后宮大夫畢兼又此沙汰出来之時於上皇御

前或人申云予笙非重代云○執申之頗為無

念以事次吹申披之凡管弦家雖何器以傳之

為重代如地下輩

大神笛豊原
笙等之類也

不定其器但如

當家催馬樂相傳之人々少々百之爰笙者堀

川右府大宮右府大宮按察中御内右府同内

府中御内大納言等連綿不断父祖二代中絶

然而一門中將入道敦通熟依學此道受其說

彼禪門又重通家通敦通等相傳之人也兼又

日付豊原利秋宛淵源畢隨又豊原時元者大

宮按察宗俊牙子也又中御門石府奉 敕康

和年中定笙吹三人豊原公里時忠今勝劣祖

申子細今取祢雄之近秋當時笙稱其末葉於

當道可獨步之家此子細見中有記衆口銷金

無術之次牙也惟可被奏達之由答畢

奧書中御門宰相宗雅以御本書之

從立位下左近將監豊原朝臣量秋判

諸曲譜之事者先師數多有之重而可勤之事

合也其時忠秋依彼語調合畢景賢為一者之

向不改其圖于時忠秋之舍弟仙聖房南都善

師笛橫其圖件比多用彼圖也本躰圖進入近提山法

衛殿之時橫笛之〇件端破留之而忠秋之末

子信秋幼少之時引失畢仍其圖斷絶畢近秋

不知此子細元有其謂之笛二者左近將監

大神景負未談云此事雖無義置旨聊有由緒

歛祖父景賢喘息取勞過法老後好吹笛音細

事一定也件笛成吹忠事本來一切無瑕景賢

云此笛歌道有事吹或笛細工僧之皮部有事
吹即切破見之處依為寄竹有石摩瑕二以麦
添加修理其上塗籠之袖裝束也而件麦注放
之間其響聞惡即更加修理之後如元景賢歌
遠有事上聞之細工僧皮部一瑕一推之兩人之
高名也云件笛○僧藏人房畢景基笛之弟子也 元年
常集會式賢与景基陵王荒序相論之時為景
基之方人寄身命合戰依其感也云兩人說符
合左右其興此等之子細為被洩違祖令詔皇

老屈無御之間略と取要樂音布利拍子合長
短吹久世一大事也師傳歷之深甚也取要聊
記尤可練習之

○平調

○三疊破

延八拍子

始ノ十[●]此十八始ノ十ヲ延テ可吹拍子也[●]十一[●]
 此一[●]中延タル拍子也然ハニクルヘシ[●]由[●]下[●]十大方
 延八拍子物ハイツレモニフク後ノ息拍子ノアクルナリ
 然ラ此ノ十八前ノ下ニ拍子アタラサル故ニ十ノ始ノ息ニ拍
 子當ルナリ此様毎々アルヘシ是ラ本トス下[●]乙[●]下[●]此ノ乙
 ハ一延テ小息ナリ仍後ノ下ニ拍子ニアクル也始テ下ヲ延
 ヘシ[●]由[●]十一[●]乙[●]由[●]凡[●]此一[●]中延名間後ノ乙[●]拍子一ア

クル此拍子ノサレヤウヲ以テ一延ヲ小息ト中延名トヲ知ヘシ
 毎々如此然ハ是ラ本トスヘシ

○急

早四拍子

乙[●]此[●]乙[●]ニヤカラ延テ凡[●]乙[●]凡[●]乙[●]凡[●]此ノ後ノ凡ヲ
 延テカラ中ニ吹ハリテ下[●]十トウツルヘシ上下ヲ吹ハリ
 タル凡ヲ中ニモクセテ^{イ早}乙[●]ニウケテ十トウツルカ口傳也扱
 一凡[●]此ノ凡ハ吹エツルヤウニ凡ノ息ニ心ヲトムヘカラス前
 ノ吹ハル凡ノ心ニカワルヘシ此後詞拍子此心ヲ以
 テサトルヘシ

○萬歲樂 延八拍子

此ハ指タル習モナシ譜ノ面無様但シ羊帖ノ十由下
乙由下此ノ十ヨリ下ニ移取ノ拍子一息ニ似テ而モ一息
ニアラス吹クセナリ寸テ次ノ十由始ノ十ニ拍子ヲア
テ、常ノ拍子ニ吹テスヘシ又只拍子百舞始打任カ
御遊ノ只拍子ノ由利吹自羊帖於世吹ニ成テ音
海波ノ程ニ早吹テ舞也是ヲ中帖曲ト云以外秘事
也延ノル八拍子ヲ於世吹ニスル口傳安事テトモ不傳
者難知事也
ツ子ノ只拍子ノ吹様ヲ吹キラヌワラ子テ吹ハ於世吹
ナリ仍譜ニ不出彼令十由下テトアルキ由ノ所ハ

皆一息ニノクナリ只拍子ノ譜ノ見如此を秘事ニ

皇王慶章

譜ノ面不審無之一帖ヨリ八帖ニテハ延八
拍子ナリ九帖ハ於世吹也萬歲樂中帖曲於
世吹ト同之譜ノ見様ニテ可吹之

急 早四拍子 吹様不審無之
但下オリ此一ウヨリ可吹
此下ヲ少持心ナハ下ニテ
一息トキコラ十八別トキコナリ

異表頭樂 延八拍子

始ノ下ハ三ナリニハ延テ三ノハ少早キ也每度此

拍子在之

慶雲樂 延八拍子

し由凡しり十由下十ニ此しハニナリ始ノ息ヲ
早ノ後ノ息ヲ延テ十由下十由ト可吹只拍子
之時ハしニト二延スレテ可吹十由下十し一由
十是ヲ只拍子時ハ十一一凡十ト吹ナリ

永隆樂 延八拍子

○耳列 延四拍子

此樂ノ拍子一大事也他延四拍子ニカハリテ

似タル躰ナレ一物ナリ

下引十引此下トナトノニヲ同程ニ延テ凡由し
引此凡ニヲ同程ニ又少早吹テしニツツル始ノ
延テ後ノ乙ヲ早吹テ又ナリト延テ一凡ト少早
吹テ十引ト延ナリ十由下乙引此十由ニヲ早吹ノ
ナリ乙ハ三ナリ延ハし如此吹ハ後ニテノ拍子此分
也又只拍子ノ事者不及指南秘傳ナレハ槌ニ
師ニ可有相傳

○五常樂序

此ハ余ノ序ヨリヒシツカニアルヘシカ、リ
他ノ序ニ似ス可吹之口傳ヲ受ヘシ
後ノ序共ニ
可注有ソ

ヲ見テ是ニ
吹ヘシ

詠之詞

始二度奥一度略定時二度又一度有之

乞由一凡由工一曲乞一、一曲乞一凡工一、
序吹 已上始

此凡由一ハ一息ニテハナシ萬歳樂半拍ノ始ノ拍子ノ

如シ凡由工一曲乞同拍子ナリナテ一ト延テ又一曲

乞後ノ一ヲ早ク乞ニウツリテ一ト延テ凡工一ト序吹ニ

ナスヘシ奥下十、一由下十、此始ノ下ヲ延テ十

トウツリテ十ト早ク吹又一曲始ノ一ヲ延テ

後ヲ早ク吹テ下ニウツリテ十ト延テ又下

下前ノ十ノ拍子程ニ下ヲモ可吹ナテ十曲ト延ル

次ノ下ニ下シ早カルヘシコレヲ捨ルト云ヘシ
此様ハ始奥
凡ニ破ノ詞ヲ

吹出テ用然ハ拍子同之ハルカニ可定ナリ
如此に得侍ハヤウニナフ向略之序之事何モ大概ハ

同趣ナレトモ詞ノフリカハリ別々ナルヘシ吉端筆

跡ニテアラハシカタシ雖然聊述之
口傳云延不ハ持ト云
心ナリ准他ヘシ

一ニヒ、此ヲ始ノ一ヲハカノニ延スレテ後ノ自心ノ一ヲ

延テシニウツルヘシ扱又シ、如此凡下此凡ハ不延テ

下ヲ持ヘシ 惣別定ト持ト同様トシトモ 凡シ又此ノシヲ少

定テ凡エ一トト、コヲリテクフキラ一ト太コ合

ヘシ取詮詞ノ定シ、ノハ笛ヲコバツリ 拍子ニツクヘシ

如此ノ他管ニユツリテ打任スレトモ若無戈覺

笛吹テラハ無正躰事ナルヘシ然ハ當管ニテ句々

ノ定シ、メ又カ、リヲ吹調テ持ヘシ句ノ終太コ

合セアツルニハイツレノ序モ同 **特** ノアルヲハ後童

テ早ク吹ハ習ナリキワメテ又レツカニ吹一取モ

アルヘシ

破 此ハ中八拍子ト云テ定ハ拍子ニモアラヌ

又早ハ拍子ニモアラヌカ、リ一向別ノ物也

一大事ノ拍子ナルヘシ **一** **二** **三** **四** **五** **六** **七** **八** **九** **十** 此始ノ一ヲ

定テ後ノ一ヲ少早心ニテシニウツリテ

又シ始ノヲコレモ一ノ拍子ノ如シサテエト

定テ凡トウツル此凡ノ拍子定モセス早クモ

又ナレコレヲ中八拍子ト云ニヤサテシシト

定ヘレサテ凡曲此ヲ凡ノ一始 **イ** **ニ** **三** **四** **五** **六** **七** **八** **九** **十** 定テ後ヲ

ハヤク吹テシニウツル此ノ心拍子ヲ捨

ルモ習ナリ此凡^ニ吹ヨリ樂ノカ、リニ
 定ルナリ口傳ナリ又一^ニ凡^ニエ一^ニ此ノ一^ニ
 ハ延テ一凡^ニエト一息ニ吹ヘレ早カラスレカモ
 又延テハ拍子ニアワスウツクシク手シテ息
 入アルヘレサテ下^ニ下^ニ此ノ下ノ延ヘレテハ
 下ヨリ少早心アルヘレ後ノ下^ニハ二下^ニカラ早カ
 ハレ知此吹モテ行ハ樂ノカ、リ大方不可有
 子細款

急 早ハ拍子但シテ秋樂 白柱ナシト六可替

下^ニ下^ニ此ノ始ノ下^ニレヤウ知此ナルヘレト
 延テ下^ニ同レヤウニシカモ下^ニヨリ少早ク吹テシ
 ウツル此^ニ同程ニ吹^ニ下^ニカラ後^ニレヤウ吹アケ
 テ吹ハルヘレ凡^ニ此^ニエ凡^ニハヤウモ下^ニクヤスクトカルウ吹
 テ一^ニト二^ニ延ヘレ二返ノ始ノ返ノ終ノ一^ニラハ吹ハルヘレ
 後ノ段ノ後ノ一^ニラハ吹ハルヘレカラス真ノ段ノ終ノ心同
 ニ此樂ノ吹極息入手シテ以外大事ニ可傳之^ニ始ノ
 後下^ニ下^ニ此^ニ一^ニハスエラ吹ハラオエウツルヘレ一^ニ返吹時終ノ吹凡^ニヘレ

廻忽 早ハ拍子 五常樂急ニ大替ヘレ

十シニ下十一ハ此始ノ十ハ不可定カレトモ樂ノ
始ノ詞十レハイサ、カ相カ、ヘテシニウツル、レサテシ
シト延スシテ同程ニ吹テ下十トト、コララス一ハト
可定サテ次ノ一ハ延テ一ハ乞ハト可吹後ノハ
ニハ可延又一ハ延一ハ此一ハ始ヲ早ク吹テ後ノ一ハ
可延サテ一ハ延一ハ下由ハ延一ハ息ニ吹テ下
ハト延テ下十トヤウモナクウツリテシ、此ハ不
延ハ延一ハトハシナラ早ク後ヲ延サテ
十下十ハ十ハ延コレモ始ノハ不可延後ヲ延

始ノ詞

テシトヒトツ吹ク此ハ不可延ハ十ハト吹
返ルハシ

陪臚 早只拍子

十由下引此十ハ不延但始テ吹申間少具心アル
ハシ次ノ下ハ延ハシ早只拍子ノウハハサノハ不可
延又凡エ一ハ延一ハ始ノハ延テ後ノ一ハ不延其ハ後
ノ一ハ延アサカチニスヘカラス拍子合タルハシ
以後同前

想夫恋 延ハ拍子

下十一、已下悉无不審歟一曲乞十一、是之如此
拍子ノ當様注之可随上中延テ一延テ小息ト
差別モ前ニ注之

扶南 早四拍子

譜之面无不審歟鷄徳ナントノカ、リナリ 一息亦イ持ミテ

楽ノフリ替ニ

勇勝破 延八拍子

譜面無不審只拍子之時終一拍子六鞞鼓也

急 早四拍子

し下十し下十此同詞也コレモ始吹出ノシラハ
カ、ヘテ心アリテ吹出スヘシ爰本ヲ音頭ノ大事ト申也
而モ又カ、リナリ又し、下十し 此下十、一息ニサリ、段ニワレニ 下十し凡一、
ノ段此ノ吹クセ樂ノカ、リ專止此しヲ二同程ニ
しし、吹テ下十しツカニツツリテ十ニテ少持
テ押ノル心アリテ次ノシラカロクサラシテ
下十ト一息ニ吹ヘシ惣ノ習樂ノ意趣ししト
吹段ノ始ヲ吹ヨリト、コラテスサラクト吹テ
し凡一、心ヨク延一キ為也次ノ句へ下十し

凡一又延コレヲカ、リトモ云ニ未詞同之

春楊柳

早八拍子

此ハ又余ノ早八拍子ニカワリテ別ノフリ也先始
ノ十由下シ、此十延フニシキナレトモ吹出ハ前ニ
如申心アリテ少始ヲ延ヘシ下ニ心ナシシ、コレモ
ニヤウモナク吹ヘシ如此吹モテユキテ十下シ、
此シニテ後ノシラ延テ吹シムルニカテ乞田下ト始
ヘシ此拍子ニテホラ可心得又凡由乙十由下十由
此ノ終ノ十ハニナカラ延ニ又工凡十由下十由此後

ノ十ハ一也此十ヲ一ツ延ル此樂ノ專也向白詞ト云
ヘリサテ次ノ凡凡トウケテ吹息入大事ニ

夜半樂

早八拍子

是又春楊柳ニモ替テ一説ノ物也於世吹ナリ
始ノ一四ナリ次ノ一又四ナリ次ノ一由二ナリ都合十ナリ
吹様ハ始ノ一ハヲ同程ニ吹後ノ一由乞ト息ヲフキテ
凡工一トフク是ヨリ則於世吹ノスカメナリ惣テ
此於世吹ノスカクヲ心ニステ始ノ一ハヲモ吹ヘシ
只ニテクハ不可吹於世吹ノ物ト吹出ヨリ知様ニ

アルヘシ由ノ字付タル取皆一息ニツクヘシ

雞徳

早四拍子

譜之向无不審歛仍不注之

小娘子

早四拍子

是モ無不審歛但凡工一凡一乞凡工シ

此夕白日能ク可吹

玉昭君

早四拍子

始ノシハ十下シ此様皆前ノ樂ニアル拍子アヒナリ

十下シ此シノ拍子五ナリ其ハ十下ト一息ニ吹

ニヨリテ下ニ拍子不審然ニシニハヤク拍子ニア

タル也仍テ拍子六五ナレトモシノ数ハ三也後ニヲ延ニ

ヨツテ拍子四アタル合セテ拍子五アタル

感恩多

早四拍子

是ハ又余ノ早四拍子ニカワル也十下エ十下十

此一句ヲヨク吹ハ末一テ及ヘシ始十少持心アリ

テ一エト一息ニ吹テ十下十下トヤウモ十ク吹ク

タルヘシリテ一ト持テエニウツリシ下ト十ト

ヤカニ吹テエトト二延ヘシ又一エシエ此一少

持テエシト一息ニ吹テエト不延ニ吹テ下シ
エシト吹テトトニ延ナリ又エト下
トシト下トエシト此終シハナリ可延ナリ
此ト下トノ詞地久急ニモアリ少吹心カワル
ヘシ後ノ下ヲ此ニ吹ハル其故ハシト此不延然ラ
トヲ吹ハラ子ハシト吹ニシレ地久急ハトト下ト
凡ト延テニ吹クユヘニ後ヲ吹ハラ子トモク
ルシカラヌ此樂ニ此シヲ吹サケテフケハワロ
コシト吹ハリテ下シニシト延テ下シト

ト吹テ始ノシヲ早ク後ヲ延ヘキ也

老君子 早四拍子

譜之面吹様先不審仍不注之

○林歌渡右樂早八拍子又延四拍子ニカン

カテ大鼓ヲ打モ毎子細

凡エ凡シ此ノ後ノ凡ハ一延タルナリ凡ト一延此
一ハ始ヲ不延後ノヲ延ラル仍拍子ハニアタル
也次ニトヒトツ吹テ口へ返ル此ハ不延又不
早中ニ可吹扱下ト引ト延テ一曲乞トト一息

吹テ一リトヒトツ定テ一下下リト吹一レ以後
同之

○倡頌 定八拍子 只拍子

始ハヤウモナキ只拍子也。し。曲凡し。ハ。し。一。凡。十。
下此ノし。曲凡し。ト吹ク三吹切テ句ヲ切クルト
キカセテし。一。凡。十。下。凡。十。ト吹。一。又。一。凡。十。
凡。十。此。下。三。拍子。ヒトツオシタレトモ。下。六。
三。下。リ。始。ノ。下。三。六。拍子。ナレ。後。ノ。下。十。下。ト。重。テ
吹。二。拍子。アタル。定。八。拍子。ノ。間。二。息。一。拍子。當。之。也。

譜ノ向ニテハ人不可知能。分別スヘシ。又終ノ凡。
一。下。下。し。リ。此。し。拍子。アタル。コト。多ト。思ヘシ。下。
ヒトイキナレハ早クし。アタル。ニカモハシ。ノ。ノ。下。定。
ル。ニ。ヨ。ツ。テ。後。二。ノ。し。拍子。アタル。也。惣。テ。此。樂。他。
ノ。樂。不。似。大。鼓。鞞。鞞。大。事。也。

○黄鐘調

○喜春樂序

此。し。凡。此。同。程。吹。但。後。ノ。凡。ヨリ。早。ク。成。
テ。下。下。リ。ト。早。吹。テ。大。鼓。合。ス。此。ノ。句。ノ。フリ。テ。

以後可順之譜ニ延取リトアルヲ見テ可延ナリ
此延ニ心アリ少持心アル取モアリ又延取モ
アリ假令第二ノ太コ比^ハし^ハ此^ハ此^ハハ^ハ此^ハトアレ
トモ持^ハ次ノ^ハニ^ハツツル取延テ心ナキヨリモ
持テウツル心ヨシアリサテ一^ハ一^ハ比^ハ比^ハ
ラハ可延心ナクテ次ノ下へツツルへし是ニテサ
トルへし第五^ハ下ナリ此^ハ又持ナリ^ハ第十
一一^ハ一^ハ比^ハ比^ハ持^ハアリテ下^ハ一^ハ早吹カ
笛ニモヨク合ナリ

破 延ハ拍子

レカレトモ余樂ニ不似拍子大
事ナリ

車^ハ比^ハ比^ハ比^ハ此^ハ比^ハニナリ始^ハ比^ハ延^ハナリ仍^ハ拍
子ニアタルナリ後^ハ中^ハ延^ハテ小息ナリサテ^ハ比
レ^ハ此^ハ又中^ハ延^ハテ小息ナリ次^ハノ^ハ中^ハ延^ハテ
小息ナリ拍子ノサレヤウ一^ハ延^ハテ小息ニ似タリ
其ノ見様^ハノ書ヤウ拍子ハニサレテ^ハノソ^ハ
ニ^ハ付^ハタルハ中^ハ延^ハテ小息ナリ一^ハ延^ハテ小息ハニノ
字不付之是ニテ見分へし次ノ^ハレ^ハ比^ハ拍子ナレ
レ^ハ心ナク早ク吹テ下ニツツルサテ十ト吹テ句

フ切テハ是ハ二十リ後ノハテ延テ比ト吹ハ
リテ一此ハ比後ノ比拍子トシテハ一定テ小息ナ
リ以後同之能ク可分別

同只拍子之事 大方奥書トシトハ不
本侍トモ秘ツ子ニ吹試度事也

比リト比リ此比羊拍子ナリ耳列之只拍子ト同
仍秘ナリ 第二ノ太コノ後比コレヲ比ト吹ハル
テ一此リト一息ニ吹又終ノ比一ト一息ニシテ
引ト延テハ吹テハトヒトツ吹テ始ハ吹

返ス

桃李花

延八拍子

帕々之譜向无不審向不注之一帕只拍子又每
子細歛

譜上樂

延八拍子

譜之向无不審之向不注之

後龍舟

延八拍子

始ノ拍子無子細ハ由一ハ下ハ此ハ一ハ之
凡二十ルハ吹クハノ所也下ハ凡此凡又二

ナルヘシ上ノ一凡凡ノ後ノ凡ニ拍子ヲアテ、
吹レツノテ下^レし凡凡早下^レしトウツリテ是モ
後ノ凡ヲ持テサテ一^ニ凡^ニ吹クサテ三^ニ定テ
小息也始大コノ次^ニ凡^ニ由^テ羨下^レ此ノ下ハ一^ニサリ美^ニ
拍子アタラオ^ルニヨツテ下^ニアタルコ^レ此^ノ樂ノ
吹クモ也此詞ノ取^テ兼^テ秋^ノ自^レ筆^ノ氣^ノ毎^ノ譜^ニ
口傳ヲ残^ルを師傳ニ云ヘシ亡父之口傳ニ凡^ニ
由^テ美^ニ此^ヲ吹^レツノス中^ニ吹^テカルク下^ニウツ
ルヘシ心ハ只^ニ凡^ニ由^テ美^ニ美^ト吹^ト思^テ後^ノ美^ヲ

下^ニ吹^{タル}ニコツ此傳ナラサリニ思ヘカラス於
未代不可知人同ツラニ人吹ト覽侍トモ如
此口傳レテ息入之下^ニヒソカニ可聞大^ニ可替又
第^ニ度^ノ下^レし凡^ニ凡^ニ一^ニ凡^ニ水^ノ此^ノ次^ノ凡^ニ工^ニ此^ノ凡^ニ
一也延テエヘ一息ニ吹ク此又中^ニウケテカ^ノ口^ノ
吹テ一^ニウツル此ノ一始ヲ延テ一^ニ凡^ニ一^ニト吹キ^移
ル也第^ニ十一^ノ大^{コノ}後^ノし^ニ中^ニ延^テ下^ト一^ニ
息ニ吹^レ此^ノ下^ハニナルヘシ後^ノ下^ニク^クト拍子ヲ
アテ、しニウツル此^ノ後^ノし拍子ヲアテ、

カモカロク吹レツノス凡エト移ル又エシノ取
此後ノシニ心ヲトノスカロク凡ニウツルリレモ
カワカレクハアルヘカラス箏十六ノ大コノ後
ノ凡エハ心ナクカロク一ニウツル此一始ノ延ル次
ノエシ前ニアリ

散吟打毬樂 延ハ拍子

始ノ一由^レ凡^レ此一ハ常ニ六拍子ニアタルカ又ニ三ツク
ルカ^レルニ是ハ拍子一ナリ始ヲ不延シテ一一凡
ト吹ユヘナリ凡ハ一延テ小息ナルヘシ他取凡

不審不注之又以只拍子用三十二相此時早
只拍子也一由^レ凡^レ此一ヤウモナク一一凡ト吹此
凡引延一レ後ノ凡^レ引此ハ二十カラ不延十由^レ凡
引上ノ拍子同之己後ノ拍子譜ノ向凡不審歟
詞ノ長短音曲ノ聲ニ隨ヘシ

央宮樂 延ハ拍子

第四ノ太鼓ノ後此^レ一^レ此^レハ三也始ニテ延テ此
一トウツルヘシ此一ニニナルヘシ中モ不延三十カ
ラカルノ吹テ中ノ一ニ拍子ヲアテ、此ト吹付テ

比二延テ比しト吹テリ以後無不審歟但只
拍子拍子ハ鶴鼓也之時比取十しりしり比しり一比しり
此分也

。感城樂

延八拍子只拍子時第六大鼓六拍子ナリ

始ノ下ニテリ始ノ下ヲ少延心アリ凡ハ一延小
息先不審第五ノ大コノ一此ハ中延タル也凡工
一此一始ヲ延テ都合ニナル一レ又第五ノ大コ後ノ
しハ五延ヲ小息此次ノ十下し此十ハ延一レ吹クセ
前樂ニ有之只拍子已下譜面無不審

。安城樂

延八拍子只拍子無不審

第五ノ大コ後十由下し十下し此前ノしハ二
也後ノしヲ少持テ中ニ吹ハリテ十下ししと少
ツリレクカロク少早心アル一レ第五ノ後ユし此
ハ二也

。聖明樂

延八拍子只拍子无不審

譜无不審

。應天樂

延八拍子只拍子无不審

譜无不審

重光樂

延八拍子 只拍子 无不審

第三ノ太コ後ハ 由比一ハ 比一カロク少早ク
比モ一ヒトツナル一後ノモ同終ノ比一此ノ六
ニナル一

河南浦

延八拍子

譜 向无不審

只拍子ハナキ也 仍不及子細

平蛮樂

早八拍子

下十一ハ 此一ハ二十ナリ 不延同程ニ吹テ一ハ
ト吹ウツルヘシサテハ 比ニ延テハ 下ハ 下下ハ

此ノヒトツノんヲ少持ヘシ延モテハナシ 此ハ
シタルクヲモツフケハ一ハ 下ハ トウツクシクハ
吹ヒクキ取ナリ

海青樂

早八拍子

譜 向无不審

拾翠樂急

早四拍子

无不審 向不注之

西王樂序

无不審 破延八拍子 常ニ只拍子用之

譜 无不審 當時无之 無念事也

蓮華樂

延八拍子

譜ニモ无不審 有只拍子同无不審

鳥急

早八拍子三十二相次必吹之

シリシ此後シハ不延始ノシハ延ル也始ノ下シリハ
延後ノ下シ此シハ不延又エニ一リ一エ此ノ後一ラ
譜ニト書若ニト可心得之間如此注之物惣テ
此樂ノ拍子常ニ人フケトモウルハシク音ハ不聞
先始ノシラ延テ次ノラ延ス又早カラス中ニ拍子
ラアテ下シト吹ヘシサテ乙リト延テ下シト

可吹又エ一ニ此ノニラ中ニ吹ハリテ次ノエト
ニト吹シソノテ延ヘシサテ次ノ句ヲイキクト
吹始タルヤウニ吹ヘシニ由エ上ニ下此ノ句ノ事也
以後ノ拍子如此

一取分此調子ノ樂ニ始延樂タシニ口ノ拍子ニ
延タルヲ音頭スル時始ルニハ中延タル様ニ吹
本スヘシエ及ノノ拍子ニ又同カルヘシ他ノ調
子樂ニ同之

雙調

春庭樂

延八拍子 只拍子 時才六大鼓 六羯鼓

譜之面 无不審 只拍子 又無子 細仍不注之

柳花苑

早只拍子

凡^レ引^レ延^レ下^レリ 凡^レ曲^レ一^レ引^レ此^レ引^レ凡^レ引^レ此^レ凡^レハ一^レ下^レリ 凡^レ引^レ

此^レ凡^レハ始^レハ早^レ後^レノ 凡^レハ延^レ常^レノ 只拍子ノ通也又

第五太^レコノ後^レ十^レ曲^レ乞^レ引^レ下^レ乞^レ下^レ引^レ此^レ一^レ乞^レ一^レ息^レ

吹^レテ十^レ引^レ一^レテハ吹^レカス^レテ^レシカ^レニ句^レノ内也ワロノ

フケハ十^レ一^レテ一^レ息^レニキコヘテワルキ也一^レ乞^レノ乞^レテ

少^レ持^レテ十^レト別^レニキコユル様^レニ吹^レヘシ

渡物 抄物口傳以如本調子也 仍不書之

鳥破 延八拍子

譜之面 无不審 但終ノ十^レ曲^レ一^レ乞^レ十^レ引^レ吹^レクセ也是^レニ

アルカ^レリノ譜ノ拍子ノ引^レヤウ^レタルハシ此^レ下

曲^レニ引^レツケテ引^レテ不^レ延^レシテシカ^レニ後^レノ

十^レテサ^レシテ引^レテ持^レテ一^レ乞^レト一^レ息^レニ吹^レテ下

ト延^レヘシ

同只拍子

第一ノ太^レコ後^レ十^レ曲^レ一^レ乞^レ引^レ一^レ比^レ引^レ此^レ比樂拍子

ノ譜ヲ見テ一此ト吹ヘレ只拍子ニテハ此此ト
後ノ此ヲ延テ如此吹也
御遊ノ樂エハ常ニ吹テ
手シテカキリ能ク可分別

急 早ハ拍子

凡・凡・凡・凡・凡
テ延ヘレサテ次ノ凡
吹ククシテ一凡一凡ト延ヘレ第三ノ大コノ後
一凡一凡ト此ノ十又中ナルヘレ吹サクハカラスサ
タレハ次ノ一凡十トウワシレカラス又第六ノ
太コ後一曲凡凡一凡凡一凡ト此後ノ凡一ヲ

拍子ニヨクアラテ、サテ持テ凡由此初ヲ延テ凡
由一凡十リト延ヘレ手シテ息入能く切テ入ヘレ

賀殿破 延ハ拍子

第三太コノ後此由一凡一凡由一第五ノ太コノ
後此一凡一凡此ノ此一ハ上ノ凡ヨリ心ヲツケテ後
ノ凡ヲ少持心ニテ一ト吹アケテ凡トウツルヘレ
一ヲ吹サケテ心アケレ凡トウツリテヨハシ

只拍子

譜ニ无不審

同急

早只拍子

譜ニ無不審

春鶯囀颯踏

八拍子物本調子ト同

始太コノ後ハ凡凡由一此凡由一息ヲツキテ於世

吹比由凡同之

入破

六拍子物拍子程颯踏ニ同譜之百无不審

凌王破

早八拍子本調ニ本注

自本調子大事也
常可手馴

北庭樂

早八拍子本調子同之

胡飲酒酒胡子武德樂迴杯樂

新羅陵王但常不用之已上本調子ト同仍

不注之

地久急

渡右樂早八拍子

第二ノ太コノ凡此凡ヲ吹レツノテ一凡ト一

息ニウツクシクカロク吹テ一由凡^{ツクテ}ト後テ

延ヘレサテ凡トヒトウツク此凡中ニ吹ハリ

テ十^ハ下拍子ハ三アタル十ハニナリ十ト下ト

延テ一息ニ吹此樂ノナリ吹クセ也サテ凡^ハシ

下トカロク十^ハト二延ヘレサテ比トニ吹ハ

ルヘシ凡下下下下下
テ下下下下下此下下吹レツノテヲモク吹テ
下下下下下一息ニ吹テ凡トニ延ヘシ

大食調

秦王破陣樂 始序 後延八拍子

第二ノ太コ後シ：下下下下下此後ヲ吹ハリテ

レトト拍子ヲアテ、太コ三延テ小息也此大

ノ譜之面先不審向不注之同只拍子説 於世吹

也号早吹 可秘之 此時序吹無之美 イモ 是ヨリ

早吹也美凡凡美下リ下二句ニテ吹切

ハレ譜之見様只拍子ノ口傳如前云由ノ付

タル所ハ悉ク一息ニ吹早只拍子也以後无

不審歟

傾坏楽

延八拍子

譜之面无不審歟只拍子同前

急 早四拍子 无不審

散手序 常之譜之面也詞息入ニキト

ワヒシケナキ ヤウニ吹テスハシ此序才ニノ太

コシ一凡エ一凡エ二拍如此重テ吹詞後ノ凡エテ

童子吹トテ後ヲ早吹テ太コニ合ハシ是此序ノ

フリ也以後順之

破 延八拍子 譜之面无不審

太平楽 道行 延四拍子

一由凡エヒト延ハシニナルヘシエトヒトツ吹テヒ

火エト早クシヨリエハウツルオテ次ノヒオヒト延ルナ

リ後ニテ此拍子也才セノ太コノ後ヒト美美

下下シヒト此ノシハ三也拍子ハ二也一延テ小息ナ

リ次十由下十此十ハヒトツナリ次ノヒコレ

ハ二延テ美ヒト凡ト早吹テ一ヒト此ハニナルヘシ次一

由ヒト火ヒトシヒト火ヒトエ凡ヒトト下ヒト下ヒト下ヒト此ヒトシハ一延テ

小息ナルヘレ ズレ付タルハ皆
早吹心ナリ

破 延八拍子

第四ノ太鼓ノ後一ニ十下此一息十ト延テ拍子
ヲ可合此樂ノ吹クセノ後ニアル取ノ十下ハ
ハ下レ十三拍子ヲ可レケルニテ可心得同只拍子
无故實欣樂拍子ニテ十下ト延取只拍子ニテハ
心得テレツ子ノ拍子タルヘレ

急 早四拍子

由下ツク息也於世吹ノコトレ世之人ツ子ニ有

テ安コトニ思ヘリ勤ハ樂オワカレクテ物出ノ心
アリ詞ノウツリ可ハイト明白ニ手レテシマカ
ニ吹ナスヘレ太鼓モ大事ナリ能ク抄タル人
スクナレ

賀王息 延八拍子

第二ノ太コ凡上一ニ此一ニ三延也シカモ三ノハ
早心アリサテ凡エ一ト吹ヘレ此凡エ六延万
ラス假令五常樂破ノ十下ト延ル拍子ニハアラ
オルト云コト也サテ第三太コノ後凡由行美

此美ハ二也不延エナカラ回程ニ美美ト吹テ下シ
ハト吹又第セノ太コトハ凡エ一ノハ二又後モ二
ナルヘシ又才十一太コノ後凡由行美下シ下
ハ下シト吹取吹クセナリ上ノ下ハニナルヘシ
第十三太コノ後行美下此ノ下ハ三ナルヘシ中
延ル後ノ下ハニナルヘシナリ行美一コレモ三ナリ
中延ナリ又凡エシモ中延也悉吹クセナリ能
々譜ノ面ヲ守ヘシ只拍子カケ吹多在之无不
審歟

打毬樂 延ハ拍子

第三ノ太コ後シ由凡行美下此ハニナリ
又一曲行美下此美モ下モニツナリ又凡エ一
行美下此下ハ才三ノ太コノ後ノ詞ト同之
又只拍子无不審歟

還城樂 早只拍子

第二ノ太コノ一ハコレハヒトツ也同第八ノ太コ
シハヒトツナリ第十ノ太コ下ニハ是ハニナルヘ
シ余ノ詞譜ノ面无不審

放鷹鳥樂

延八拍子

第十三ノ太コ一由工シエリ此ノ工六ニナリ後ノラ
延凡リトノヘテ凡大凡ト吹ヘシ吹クセナリ
只拍子
无不審

天人樂

始太コノ後凡工一コノ一ニナリ美凡一ハ
二凡ハ一ナリ吹クセ也以後无不審

輪鼓禪脫

早只拍子

訖々有之

樂拍子
訖アリ

譜之面无不審太方拔頭相似ナリ但拔頭舞ア

リ舞ノ心妬テ髪ヲカナクリ腹ヲタテタル心
アリテ舞ナリ其ノ手ニ合テ樂ノ拍子詞モ吹

ヘキナレハ大ニカワルヘシ此樂ハ

此行美行リ此
初吹上音鏡ハ此ノ行ヲケモツレ次心ナシ

初発ノ勾イカニモシナヤカニ吹ヘシ又才ナニヲ

太コヨリ凡曲一リ工凡リ凡十シリ凡工一リ

此詞此樂ノ詮ナリ能吹シ

後及ニカワル所後下ニ明ヌ
ハレヌナナ下ナナ

一ナ下シ此一ヲタモツテ下ニ
心ナクハヤクウツルヘシ

蘇芳菲

延八拍子

一由凡工此工ハ二ナリ第二ノ太コノ後七一美凡

一由此美美凡吹クセナリ此凡ニ心ナク持スシテ
一由ト太コヲアテ一エエ凡由エト吹ヘシ吹ノ一由
美凡凡美下コレハ常ニ有詞ナリ常ニナキ樂ヲ
吹試テ
ラクシ

。抜頭 早只拍子

シ行美行リ輪鼓禪脱ト同サレトモ上ノ一句
同カラス世間之人吹ハ同之口傳ニ云ク後ノ行
ヲ吹アノヘシ可テ一ニリト中ニ吹テ又次ノ句
ヲ一句ノ終コトニ吹アクル心アルヘシ但下由

シ凡凡ハ吹アテス下ニリト中ニ吹ハル可テ一由
美リト吹アリテ下ニリ由凡リトヤスラカニ
吹ヘシ取詮行ニ美ト又羊帽ノ凡由凡工此
ノエトヲ吹アケテ吹クヘシ此説深キ口傳工
ヘアリテ面白説也又一凡シリ下ニ下由シリ
リ下由シリシリ此詞ウツクニク吹テスニ由
ノスカクノ舞アリ嫉妬ノ身ト申傳タリ口ウ
ヲマフル身トアレハリト覺タル舞ノ様也然ト
モ女ナレハナヒヤカナル取アル一ニ句コトノ未

フ吹アケケラハ又樂ハ子ヲキコヘテコハコシキ
心アルハシ取々ノ終吹アケテ氣ノアルヤウニト
思ヘシラレハト云テ管 弦 ナントニコトクシク吹
レ所人ノ耳ニ立ヤウニハ不可吹具心ヲ得テ
吹レ

仙遊霞 早八拍子

譜白無不審 仍不注之

。唐人三疊 早四拍子

譜回無不審

長慶子 早四拍子

譜回無不審 行幸立樂ニ奏セシ時退出音声
トニ樂之吹替ハシ可受口傳大コ右三説上樂
ノフリモ可替者歟

盤涉調

蕪合香

道行 延四拍子

凡^由エ^一由^一凡^ハ此^ノ凡^ハニ^ナリ^凡エ^一由^一此^ノ一^ハフ
 タツ^延テ^小息^ナリ^凡由^エ一^由コ^ノ一^ハ三^ナリ^二
 延^テニ^ツノ^ラ不^延ス^行美^下由^レ吹^ヘレ^二延^テ
 小^息又^エ凡^リ此^凡ハ^ヒト^ツナ^リ又^下由^凡エ^一
 此^ハ一^ハフ^ハ一^ノフ^ル也^サテ^一由^美ト^吹句^ヲ切^也
 可^テ一^由美^一由^一此^一又^三ニ^テ行^美下^由レ^ウツ^ル

又^凡由^下レ^凡由^下レ^此下^ハ二^美凡^一由^一此^一
 元^二ノ^フル^也凡^由一^ハ下^レコ^ノ下^三ニ^テ中^ヲノ
 フ^ルナ^リサ^テレ^由凡^エ凡^ハ一^延テ^小
 息^ナリ^又下^レレ^レ由^レコ^レ一^延テ^小息^ナリ^又
 美^凡一^由此^一又^二延^ル也^凡由^一下^レ又^此下^三
 ナ^リ中^ヲ延^ル終^ノ凡^一延^テ小^息
 分別^此樂^拍子^大事^也イ^カニ^モ可^吹延^舞コ^レニ^テ此^レ調
 ナ^リ此^レ心^ハ可^延ニ^早ケ^レハ^舞出^作法^相替^スル^也破^太
 コ^ニノ^後ノ^凡由^エヨ^リ道^行ノ^調ナ^リ破^ハ拍^子又^少早^カレ^レ
 又^秘云^破ノ^時ニ^行美^下レ^レ道^行ノ^時ハ^行美^下レ^レ破^一由^一
 行^美道^一由^一行^美行^美此^ノ行^美ニ^拍子^アメ^ラス^前ノ^一拍^子

ニアナ 行ヨリアラワニ吹イタスマウニ吹之是道行ト
破トノ替ナリ 破ノトキニ行美ニハ拍子アタラス

序

下ニリ此下中ニ吹ハリテ一行美下此下ニテ一息
ノ一ラ少持テウツクレクシナマカニ下ト吹
レリテ後ノ下ヲ下ニト吹レツメテ美ニ一
一トヤウモナクトコラリナク吹テ太コニ可合
又一行美下下ニリ同心ナルヘシ此終一ニリ一ニリ
エ平此ニ運タルヲ以テ可知ナリ余ノ序ノ大

コニ可合トテ同手ノアルヲハ後ヲ重テ早ク吹此
序ニ努ケアルヘカラス又第二ノ太コノ後詞一
一ニ一ニリ一ニ下ニリ此ノ一下ヲモ一行美下ト
兼秋自筆ノ息每譜ニ注セリ於未代子孫可
分別當時不用之一行美下ノ取今ハ二所ナルヘシ
又龍秋自筆譜ニ每度一下トアリ如此事可
存分可有不審之間載之又し凡し下し下目之曲ハ
早拍子ニハ向殊ニ心ハテ序ノ内ノ拍子吹レ
此下ハ太コニ當様ニ不吹下下ト吹ハルヘシ太コ
ニ合句ノ終ヲハ吹レツメタルカヨキ也サテ

一ニ一曲凡エニ一ニ樂拍子ナルヘシ第三太コ後下曲凡

此ノノ前ノニ定ラウツ切テ後ニニ別ニ吹テ一ニ次ニ同異後ノノ始ラ吹ル

一曲凡エニ此下曲凡ノ拍子イサ、カツクニアルヘシ一曲凡

ニ同拍子イサ終ノ一ニ此ノ一ニ後ノ一ヲ吹ノヌ

シ此終ノ一ヲハ吹シツメタルカヨシイサ、カ吹キ

リテ凡エニト於世吹ニ吹ナスヘシ此凡エニハ同

程ニ中ニ吹テ一曲此一初ノヲ少持テ一凡トツク

ヘシ拍子ノ程此義分ニテ可思量、惣テ於世

吹ハ樂ニヨレトシ假令一曲美トントツク取サハカレ

ケレハワロシ少押テ詞ツヨニ吹テレカモシタル

カラオトルヤウニアルヘシ又美凡大美ノ所前ノ美

ヲアサカチニ定ス少持心アリテ凡ヲ早ク凡ト

ウツルヘシ終序吹如常イカニモ靜ニ吹ヘシ

三帖

凡エニ後ノエ一凡此ノ凡カロク心ナク吹テシト

吹シツメテエニト延ヘシサテ一凡凡大ニエニト

延テ大コニ合テエニ凡此ノエニ大ヲツケタル程ニ

早心勿論ナレ凡サ心アルヘシ此凡少吹シツメ

テ持ナリサテ行大美下凡下ニ此行美下凡

ニテハ同拍子ニ早ハマク吹テ下ニテ吹レツム一シ
ニテカラ延ヤウテレトモ後ノ下ハ延ス早カラ
ス又一曲エ大凡此凡ハヒオツナリ此樂ノ拍子一
大事也勤ハ樂延モテエキテカ、リ無正躰リレ
ハトエテ早ク吹テハ四帖ノ様ニ成殊師傳又ハ
常ニ吹レシ當時專世ニ誰モ吹樂ナレハトエテ
ナヒカシロニ思ハカラス能吹人少シ
人始ノ向拍子後凡由下シ
凡美也

四帖 於世吹

此凡ノ拍子延ヤウニ吹テ此凡ノ拍子ナリト云レシ

又レ傳云
凡ラ中ニスリ望テ吹レニ邊を吹テノ後ノ凡ヲ中ニ吹レシ
一凡凡此一凡ハツク拍子ナリ凡ニ心ナシエニ此工
ハ少延ル同程ナリオテ次ノ一由工是ヨリ常ニ吹
ク於世吹ノツク拍子ナル一シ又凡エ一此凡エ
一ノ拍子少シ延ル心アル一シ只ツツクレク手シナ
息入アラクナケレハ延クルヤウニキコヘテレカモ
レタルカラサレ也爰程ノ拍子此曲ノ詮也奥ニテ
ノ拍子カワル取ナレ惣而於世吹ノ物ニトリテモ
當曲ハ一大事ノカニリ拍子ナル一シレタルカラス
ツク取サハカレク吹テカラス句ノウツリサハク

ト吹成ハレ一曲凡エト吹取一曲始ノ一ヲ吹テ少吹
レツノテ後ノ一ヲカロク凡エト一息ニウツルヘレテ
行美下此手レト息又ウツクレク吹ヘレ
同只拍子 早只拍子 口ニ返ナルヘレ吹様已下
極ノル秘傳ナレハ不注之

五帖 於世吹

凡下凡エ一此下吹ハルヘレ三度ナカラ同心ナル
ヘレ又凡下此下吹オクハカラス吹サケテヨハ
ケレハ凡曲エノ取ノリテ樂ニセイナクキコユ後ノ

詞同心ナルヘレ

破 延四拍子

下曲凡一曲凡エ一此後ハ道行ノ詞ナリ
拍子ハ道行ヨリハ早カルヘレ譜面道行ノ取ニ
注之

急 延四拍子

下凡一凡一此ハ二ナリ
又凡エ一凡一此ハ二ナリ
モヒトツナリ美一凡一イツレモ皆ヒトツ也美
凡一此ハ二ナリ又美凡一凡一此ハ二ナリ吹レツ

又凡エ一凡一此ハ二ナリ拍子皆同シ

第五ノ大コノ後ノ美行行美下ニ同以後無不
審歎

破 延八拍子

譜之面无不審歎程拍子之事ハ一具之時ハ各々
ノ始一帛タル間拍子ツ子ノ延八拍子三臺破ナント
ヨリモハルカニ可延也只管法講演ナントニアル時ハ
常ノ延八拍子タルヘシ

二帛三帛四帛皆口大コ四ハ替テ此破ハ
返付也五帛七口太鼓六斗別ノ詞ノ後ハ又一帛ニ

カハル羊帛ヨリ 於世吹 當家本説 其吹様常ノ如是

七六帛ニ成テ拍子急ニセム一ノ向相拘テ拍子ヲ

フサヘテ羊帛ノ末ノ大鼓ニハカリヨリ拍子ヲヨ

セテ笙ヲサシヲカス六帛ニ吹ウツル其時俄ニ

ヨセントスレハワロクキコユ六帛大コニハカリノ後

殊ニ早成テ拍子加テ以後猶拍子ヲウキノトク

シヤカニメカヒニ膝拍子ヲ心ニ持テ次第ニセノテ

拍子ヲヨセ吹ヘシ

六帛於世吹此拍子アヒハ一帛ヨリ次才ニ早

成テ此帙ニキワニル拍子ナレハ勿論早ルルヘレ
但早ニ取テ吹ヤフ大事也句ウツリサハクトアキ
ラカニスミワタリテシノクト吹ヘシ天上世界仏
菩薩ノ御前ニテ奏樂ナレハモノサワルシクユヘ
リフハアルヘカラス但ノレノミナケカシキ事也不
受師傅者イカニ如此書付タリトモオトリカ
ノレオレトモ未生ニ出テ又其塚ヲ知モノモノル
一キ為、如形書注者也樂詞エ凡此ノ二字ハ同心
ナリ仍拍子アタル下。曲コノ下ハツヨク心ニアテ、

吹シカモ大コニ合次ノハニハニトシ仍拍子アタラ
ス大方拍子ノアタラシキル字ニハ心ナク執心ナキ
カヨキナリ捨ト申ヘシオテエ凡ハ凡ハ凡ハ凡ハ
美下ト一ノ文字ニ一ツハ拍子アタル皆心ア
リ於世吹ノ地文ナリサテ凡曲エナントツク息
ニ吹拍子ハ音ノアヤコレヲ於世ムト云ニヤ如此
知テ吹人アルヘカラス以後同之

又破ニ只拍子ナリ元不審於世
吹テ吹切ル也仍吹秘之

秋風樂 庭ハ拍子

第三太コノ^レ由^レ凡^レ工^レ凡^レ美^レ下^レニ此工後ノテ吹レ
ツノス少持心アリテ凡^レ美ト早ウツリテ下ニ
拍子ヲ合テニ延テ小息ナリ第八太コノ後下
由^レ凡^レ凡^レ美^レ下^レコレモ同シス行^レ美^レ下^レ凡^レ工^レ工^レリ
凡^レ此^レ行^レ美^レ下^レハ始テ延テ吹レツノメテニノラハカロ
ク可テ凡^レ一^レ此^レニナル一^レ不^レ延^レ一^レト吹テ凡^レ此
凡^レ心ナレサテ工^レトニナリ始テ是モ延テ後ハ
火ヲ付タリ早也

二^レ昭^レ三^レ昭^レ拍子同之仍无不審但三^レ昭^レ第二^レ

大コ後ノ詞凡^レ工^レ凡^レ美^レ下^レ凡^レ吹^レクセナリ

衆ノ詮ナリ白^レ吹^レ下^レ一^レレ只拍子有之无不審

輪臺

中八拍子兼秋譜ニ此ヲ存ト云ト書給テ然レハ
音海夜、彼ニレ延給臺ト謂ナリ

由^レ行^レ美^レ此^レ始テ延テ後ヲ大ニ行^レ美^レト此^レ美
ラ吹^レ下^レクヘカラス中ヨリモナラ吹^レハリテ下^レ由
レト吹^レヘレ由^レノ字付タル取ハ皆ツク息ノ拍子
ナリ又第三太コノ後下^レ由^レ凡^レ凡^レ此^レハニナリ
ニナカラ早レ凡^レ工^レ凡^レ美^レ下^レ此^レ工^レニナリ工^レヨリレ
ヘツツル取大ヲ付タリ可テ後ノレ由^レト吹^レツ

ノテ始ラノヘテ 凡エリト吹ヘシ

吹渡 只拍子吹 舞ノ時必アリ

下 由 凡 凡 由 工 凡 定八拍子ノ常ノ只拍子ヨリ

モ少早カルヘシ又早只拍子ニアラス是等ヲ中

八拍子ナルヘシ長短之吹渡音海波ニ有之吹

様同前

。青海波 早八拍子

凡 由 工 一 由 凡 一 由 ノ 取 ツク 拍子ト心得タレ無

始凡又一何レモ定持後息ヲツクニ他取渡

子細第八ノ大コノ後シニシ大工凡此拍子ツク

ニモアラス早キ拍子ニ大ヲ付タリシカフハ一由

凡ナントアル取ノツクニハアナカキニ早ニモアラ

ス少押タル心アリテ拍子ノレホアヒ息ノ餘情

ナリ息ノ入マツカレハ大事也立モイラ子ハ何ノフ

レモナレ様アリトテ心ニカケテ人ノ吹ヲモ聞自

身モ兔角アツカハ事一アリト知ル也此次ノレ

レ凡工一此一心ヲツケテ吹レツノテ持ヘレ可ノ

凡 下 凡 下 凡 美 凡 ト マ ツ ラ カ ニ 吹 下 一 一

。鳥向樂 定八拍子

第八大鼓 凡工一此ニナリ一此中延テ小息
 ナリ羊帖ノ後オニノ太コノ後凡下凡工一此ノ
 凡工延テ凡拍子ヲアテ、吹一レ吹クセナリ 大平手儀ノ
十下上延占
 又奥ノ凡乞乞美下一工凡此ノ下ハニナリ一
 中延テ小息ナリ拍子ノサレマフヲ見ル一レ假令一
 トアリテ次ノ工拍子ヒトツアラハ前ノ六中延
 テ小息ナル一レ若一ニ拍子同ヤウニサレタリトモ
 次ノ工拍子ニアタリタラハ一延テ小息タル一レ
 此見様順他 只拍子アレトモ先不審

宗明樂

延八拍子

第五大鼓 後下レ凡下レ一乞下レレ此下乞
 吹クセナリ前ノ下レ凡此ノ凡ヲ吹シメテ拍子ニ
 合テ下ラ少カロク吹テ乞乞ト拍子ヲアテ、一
 乞乞ト吹拍子前ノコトレ兼秋息毎ノ譜ニ下レ
 レ凡凡下レ一乞乞下下レレレレレレレレレレレ
 シズトアリ此吹様本タル一レ只拍子ノ時ヨリレ
 ラレタリ下レ凡下レ乞一乞下下レレレレレレレ
 レレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレ
 レレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレレ
 譜ノ道ヲ用ナリ

採桑老

定八拍子

譜无不審但行美下此ノ下ハ二十リ後ノ下是

ハ中定テ小息ナリニナリ第ナ大コノ所行美

下下ニ同

此下ノ上ノ行美ヨリノ拍子カ鞞コノ一ヲ檢ニ合テ誠ノ古樂ナリ

舞立テハトテツ子ノ様ニハ早カルニシキナリ舞老躰ナリ新古ノ妙物ノ心得此口傳ニヨレリ

模莫者序

此序一フリアル序ナリアナカチニ別ニ習取ナケレ

トモ大鼓荒序ノ如テレハ序ノカ、リモ聊心得ア

ルヘシ奥ノ下戈言奥私し凡子工合此句白白詞フリ

ナリ能々可吹吹様ハ下合行ニテ下ヒトワニ残テ

言ヲ具テ息ヲ替テし凡ニエト拾テ工ノ合竹ニ

テ一ト吹テ凡リ凡上リ凡下リ凡一リ凡川工大一リ凡

エ大一リ一リ先始ノ凡ニ下ニ又凡ニ定テ吹ヘシ後ノ

下ハ不定シテ凡大下リ下リ下リト定ヘシ此下戈言

具後ノ詞兼秋譜ニ下戈言具乙凡一リトアリ

但幸秋譜當時用説ニ兼ニ注タルヲ用之時々

又し凡エト一息ナルモ白白ニ然ハ常説ノし凡

工合拾取ヲ心アリテ吹ヘシ古説今説相兼ク

ルヘキ歌

○破 早只拍子

乞引一由 乞引エ引 此始ノ乞モエモヒトツナリ早ハ
拍子タル間 乞引コレニ拍子ハニアタルエモ同又乞
凡引此凡、延レトモ拍子一アタル如何ト思レ
次ノ詞一息ニ吹取皆前ノ詞延レトモ一ナリ又下
由凡エ引此エ六延トモ拍子アタラス其下由凡エ
一息吹ノヘ也

○同樂拍子 延八拍子 此時不吹喚頭レテ返付 當家并大神用之

乞一由 乞エ引凡、此始ノ乞ハ中ヲ延ト注タリ雖
然初発詞ナレハ始ノ乞ヲモ少延心アルレ音頭獨
ノワサナリ 此エハ二十ナリ 後ヲ延一レ又次ノ凡コレ
ハ始ノ凡ヲ延テ凡六凡六ナリ一延テ小息アルレ
前ノエニヒカレテ 後人不審アル一キトテ委注之

○竹林樂 羊八拍子

一引ニ乞一由一引ニ乞下レ下レ是ハ先不審オレト
モ殊更此句ノ切ヤウヲ見テ樂ノ文句々ノフリ
ヲ能吹アキラムヘレ一引一乞一由ト切テ一引ト延テ

元種吹アキラムヲ吹テ此手習ナリ下リ下凡一音句ク切テ下レ

一凡如此吹ノハ樂ニ文^アシ^ラ出未ノ面白キスフリアル也

白柱 早八拍子

譜面无不審常ニアレハトテ安ハ思ヘカラスヨク
吹テ面白ナリ

越般樂 早四拍子

譜面无不審 凡^ニ凡^ニエ^ニ一^ニ此^ニ一^ニヒトツナリ早四拍子
ノ拍子クアタリヤウ勿論ナリ他流ニ延スレテニト
吹ケリ樂サワカレノラキニクキナリ 可レトモ替
ナル事ハ其故アリテ然ルナリ

叙氣禪脫 早四拍子 唐拍子物ナリ

下^ニエ^ニア^ニカ^ニ 延^ハセ^ス 少^持心^{アル}一^レ 次^ノ下^ニ
ハ大^コア^タリ^テ 後^ノ下^ヲ早^吹テ 次^ノ句^ノ下^ニ
シエト吹^ウツル^{ヘシ}又^次ノ下^ニ下^ニ行^美下^ニ此^行
ラ少^持心^{アル}一^レ 由^一是^ハ一^息ナリ唐^拍子^物
ノフクセツク心^{アル}一^カラ^ス 奥^ノ一^番ノ行^美下^ニ此^行
ハ吹^サケ^テ 凡^トア^ケタル^ニ文^{アリ} 後^ニ下^ハ下^ニ
ラ吹^ハル^終ノ下^ハ心^{ナシ}但^ニ返^吹一^キニ^ハ 後^ノ三^ノ
ノ下^ヲ吹^ハリ^テ 二^返ノノエ^ト吹^ハリ^テ 下^トウ

ツリタルカヨシ

千秋楽

早八拍子

譜ニ无不審仍不注之

遊字女

早八拍子

凡一下凡下し凡一此凡ハニ後ノ一氏ニナルヘシ行
美下此下ハ五ナリ二ノニ太コラアテ、後三也如
此ナレハ無様シカルヲ兼秋息毎ニ云凡リ一下リ凡
一リし凡リ凡一一行リ美下下リ下下リ下ノ
マウニ句ヲハ切タリ付字ヲモツケタリ當世用

説ハ幸秋譜ニ注タルヲ用之然ハ前説タルヘシ終ノ

一七ナルヘシ第一ノ一ヲノ一ヲ四メニ大コラアテ、

拍子ニアルヘシ

喚順不四人ト云
下譜无不審

壹越調

皇帝破陣樂

遊聲

無拍子

一引ト疋ヘシ此由凡リ
息毎ノ譜六一句ヲ切テ此比トツケリ
然ハ一此由ト句ヲ切タルハ不審但コレヲ用
吹ヤウハニアリ一此比ト吹ハリテ凡リト疋サケテ此
凡ト吹ウツル又句ノ切ヤウライハス一此比凡ト

マウモホク吹下モアリ是ヲ常ニ人吹トスヘシ
一此由凡リ此凡ヲ別ノ物ノマウニ吹タルカヨキナ
リ句上下ニサレハサレテ切タリ能々可分別之
サテ笙ヲ有ル此ヲハ吹ハラス次ノ此由ヲ吹ハル
サテ凡リト延テ一凡トマスラカニ吹テ十由々
アテカチニ吹ハラ子トモツヨノト吹テ下凡ト
吹テ十下し十リし下しニリ如此吹成ヘシサテ
凡リし凡リト延テし凡大凡此由以後同前

。序

し凡リ。し凡。し下。し凡リ。し凡。し凡。此延取之以

此凡ニテカフ延シヤリニ延取ノシ、ヨクテ後凡リ
ノサモツ時ニサレ

序ノカ、リトスルハ第一也但ノヘシ、ノハ笛合
テ吹試テ知ヘシサレトモ其意趣ハ無曲家ノ口
傳ナルヘシ樂ノ音アリ拍子合テ可口傳事也悉
以大事ナレトモ先師申傳タル太コ斗ノ可注
之凡リし凡リ。此大。一此。一リ。此大。一此。一凡。一
大。此。一。此。延。大。ニ。テ。ラ。ノ。ツ。カラ。樂。ノ。ス。カ。タ。明。白。也
又。十。リ。凡。下。十。下。リ。し。下。リ。し。凡。リ。し。凡。リ。凡。リ。
此太コヨク吹レツメテ吹テラフヘシ六取ニア

リ他ノ太コノミタリニシテアヒカタキ事ヲ此
太コニテ吹調ヘシ是隨分ノ習也凡シ凡リシ
凡一リ一リシ凡リシ凡凡リシ凡凡リ後
半帛一火凡火十二凡七凡七凡一凡十リ十リ
下凡リ十下火し十し下火し七リ此太コ始一
凡十トハヤク吹テ一凡ヨリ一凡ニテハ同拍子ニ
ムヲ長短モオクオラウト吹ククリテオ十ト
トニシ此カ・リニテ句ヲ切タルヲミテ樂ノフ
リヲ能ク吹ミオフヘシサテ次ノ太コしし十^火

十サリ^レ下^レ凡^レ吹^レ下^レ凡^レ十^レ凡^レリ^レ凡^レ比^レリ
凡^レ比^レ比^レリ十^レ下^レ火^レし十^レし下^レし凡^レリ一^レ凡^レ一
凡^レ比^レサ^レ火^レ比^レ同^レし凡^レ凡^レ凡^レ凡^レ凡^レ比^レ比^レ比^レ一
火^レ凡^レリ一^レ凡^レ下^レ凡^レ十^レリ此後ハ遊声ノ詞也少
吹カヘテ吹ヘシ始ノ一是ヲ遊声ニテハ一リト延
テソク序ノ詞ニテハ只一比比凡ト吹又一凡十
十リトフクラ序ニテハ十リ十リ下凡リト吹ク
又十下^火し十リ^レトエヒイニテ吹ク序ニテ
ハ十下^火し十^レ下^火し十^レ吹クコレ程ノ

替目ナレトモ火ニナツル也他管ニ能合ニテソト
知レ如レ此吹習テレカモ他ノ管 筧ニ可合吹レ
殊更當曲ナントハ師説タレカニ可受只譜アル
ハトテ獨樂ニ吹覺シコト努々右一カラスサレハ
人ノ吹ハ大略自骨ト聞ヘタリ

破 六拍子 但オ九オ一八鞠鼓ニ

此和ノ一ノサ持テニケテモニケル一ニ生テ初終ノ拍子ノレニテ 略レレロ傳レ
一リ^レ下^レ川^レニ^レ此^レニ^レ三^レナ^レリ 中^レヲ^レ延^レナ^レリ 次ノ
レ^レ同^レ之一^レ由^レニ^レ下^レ由^レシ^レイ^レツ^レレ^レモ^レ曲^レノ^レ取^レニ^レツ^レク^レ拍^レ子
ナ^レリ 於^レ世^レ吹^レノ^レカ^レク^レナ^レナ^レリ 拍^レ子^レ奥^レマ^レテ^レ注^レ不^レ及

序吹下ナレリニレニ一レ此レ凡レリ比ナシ
第四ノ太コノ後下ニレレニ一レ此レニツクレヌ下ナレニ一レ此レニ上ニテナレ
レ凡レ比レ凡レ凡レ大コニ延ハ勿論ナリ他取延ノ心

ヨク吹習ヘシ 笛ニ合テノ延シニノナリ

二拍 通タル六拍子 第十三第ナレニ七鞠コノ説アリ
又第十七四カコ説アリ

コレモ於世吹拍子合一拍ノ如レ取詮詞ニ延ト申
假令一凡下下ナレニ一由レ此レノ始ノ一ラケ延持心ナリ
取ハ句々ノカニラノ字ハ悉クノ文字ヲ付ストモ皆
延ルトレレ大コノツホラ延コトハ勿論ナリ

三拍 大音六拍子 但第十第十ニ五鞠コ於世吹レ

此レニレ比レレレ凡レ比レ如此ナリ 常ノ譜ヲ以テ人ニ教

吹スルトモ又自身吹トモ句ノカシラコトヲノ
テ吹ト心得ヘシ第一ノ口傳也取分此帋大事ニ能
能吹ヘシ朱サレタル无口傳

。四帋通名六鞞鼓秘説第十三第十四四カ又八鞞
コト五四カコト云々

詞無不審略之於世吹ナリ

。五帋

し凡リシズ凡リ凡リ後ニテ吹ヤウ同之延ル取
此五六帋ハ大鞞ニシカキノ間无之大コアタルキ

前ノ文字ヲ必可延是ハ此序ニカキラ子トモナル
ニ、口傳スレハ道ニ明白ナリ只ノ詞モ延取此序ニ
无ヲ以テ延シ、ノハ笛ノキヲ長短ニ合テ吹合ヘ
キニヤ一切ノ樂笛ニヨル習也オレハ笛吹大事ニ
才覺ナキ人ノ笛ヲワルク吹ハ樂ノ拍子アラス
筋ニ成物也先他管ヲイハス我道ノ習ヨケレハ
合時煩無シテ他人ヲモ可指南修家ニ習道ノ
故実ヲ能可受也

。六帋 序吹

乞引下下大し引し引五帟ノ始ノ凡引ト此帟ノ始
ノ乞ヲ延ル替ノヲ能吹ヘシ次ノ大コ下引乞下し
大凡引凡引第六ノ大コノ始ノし引延ル又第十一ノ
大コ下引延ヘシ凡し引此しモ延ル也五六帟ハ大
鼓皆詞短シテ當間詞ノ内延ル取スクナキナリ

團乱旋

序

此ノ序一ニツル事早コル
下引下引乞一引一引如此吹次ノ大コ乞大一此大一
一乞大下此下ガ拍心アル一引此大付タル取ワロク吹ケハ一

息ニキコヘ夕リ第六ノ大鼓しし引一此一乞乞十
十引二比凡引二比凡引凡引第七しし引凡し十
此ノ引十上下延テ止後ハサクク吹下ス
十引比一乞乞十引十凡引凡比引乞し引し
引每句ノ詞ニ延ル取火ノ所能吹習ヘシ序ノ
フリカリ程拍子ハノヘシノト吹ハル十其文
字ニアタルト心ナキトスワルトヲ以テ樂ノ形
トス殊更序ハ拍子毎々文字ニテケレハ此吹ヲ
ヲ以テ風情トス恐ラクハ如此習テ吹人當時ハ
トハス中百ニモ多ハアラシト亡父申可レ侍也

第十三ノ句 乙大下 乙大下 下大下 下大下 下大下 下大下
乙凡 乙凡 乙凡 乙凡 乙凡 乙凡 乙凡 乙凡 乙凡 乙凡 乙凡 乙凡
ノ一句 專一也

二帖 八拍子

一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡
此 此 此 此 此 此 此 此 此 此 此 此
後詞 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡
能吹ケハ 笛曲ノ 於世吹ノ 風情カ、リ也

三帖

八拍子コレモ於世吹

下凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡
テ吹ナリ 然ラ 下凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡 一凡
ハ息ナリ 未ノ 詞ニ 帖ノ コトシ 此ノ 火付タレ 取
皆ツク 拍子 於世吹ト云アリ也

入破

六拍子此帖モロニ及於世吹序ハ未ハ也

譜 向無不審 每息ノ 譜ニツク 取火ヲ付其詞ノ
始字ニリト付タレハトテサノ 不可定拍子
譜ニ申ラ付タリ 由ノ心を拍子ニカナナヘリ

。 颯踏 序吹

下 乞 乞 上 川 一 川 此 乞 乞 一 一 息 十 一 八 十 一 火 字
有 夕 尔 心 二 ア ラ ス 少 延 テ 乞 一 一 吹 一 一 又 第 二 一
大 鼓 凡 一 大 乞 十 一 下 一 一 一 川 此 十 一 下 一 一 息 一 又 少
早 吹 一 一 後 一 下 一 一 乞 早 一 然 一 始 一 乞 一 一 延 一
思 一 一

。 急聲

六拍子 口ハカク 於世吹奥ハ序吹入彼
十 同 始 一 凡 一 吹 一 一 一 乞 一 一 吹 替 也 拍 子 合 同 少
早 成 一 一

。 春 鷺 鳴

。 遊 聲

十 川 下 川 十 川 下 十 大 下 下 川 一 一 行 一 一 乞 一 一 一
合 川 一 乞 一 乞 川 乞 川 如 此 延 取 火 一 取 吹 習 一 一
此 行 乞 乞 一 取 一 行 乞 乞 十 百 譜 二 ア リ 當 時 乞
一 合 竹 一 用 也 後 一 詞 同 之 仍 略 之 遊 聲 一 一 一 一 羊 咩
三 一 吹 延 吹 時 二 說 一 一

序

第 四 一 大 鼓 後 一 詞 ヨ リ 延 吹 一 遊 聲 二 用 其 吹 一 一
延 取 火 一 所 替 也 序 一 時 一 乞 一 下 一 下 川 一 一 十 川 一 一 下 一 一

大下下リし下行カ 凡具合二 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 二十 如
 此リト大ト取替テ吹二 此亭詞内取分テ行カ
 凡具合ノ句ヲ始トシテ羊帖比一 二二 三三 四四 五五 六六 七七 八八 九九 十十
 十一十一 十二十二 十三十三 十四十四 十五十五 十六十六 十七十七 十八十八 十九十九 二十二十
引比一 二二 三三 四四 五五 六六 七七 八八 九九 十十 十一十一 十二十二 十三十三 十四十四 十五十五 十六十六 十七十七 十八十八 十九十九 二十二十
 比リ此等ノ大鼓吹カウノ延シ、ノノ取能々吹ケハ
 此亭ノカ、リ也惣シテ亭ノ拍子合皇帝ト二トヨ
 リモ句ノウツリノヒテ幽玄ニ吹一レシ

○ 颯踏

八拍子

二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 二十
 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 二二十
 取テハク拍子ナリ 拍子ノ譜ニハ由ノ付タル取ツ
 ヲ拍子ナリ 以後ノ拍子合同之羊帖ノ後第ニ
 ノ大コ後一リ比シリ十比一 二二 三三 四四 五五 六六 七七 八八 九九 十十 吹レ
 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 二十
 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 二二十
 以後拍子同之是ニ凡凡大一ヲツク拍子ニ

○ 入破

六拍子

○ 鳥声

亭吹

んりんりん第三ノ大コん一ズん大んんりん此

ノ大ハ早吹へし下

下ノ下 昇行上ニ共具ニ
下ノ竹ヲ下ニトツ竹ヲ下ノ具ス

一此此り

急聲

六拍子

入破少早吹仍不注之

羅陵王 荒序不及注道之一大事吹ニ大ニ

昏間是非ヲ不沙汰

破

早八拍子

此り此一此一此り一此此んりんんり一此んん大

一此此んりんん大一此ん此一此此ノ此ニ心ナシ拍子

モゾタラス次ノんりラ延ル心ノ内ニテ持コ、ロ

ヨシ扱一ズんん大此此此ヲハ吹ハルサテんり

ト吹延タルカヨシオ六ノ太コノ後一ん大んしし

此ノし同程ニニツ、ケテシカモしノ心後ヲ、モクヲサへ

ラ下んん大十下下トヤツモナクサラクト吹ク

タシテ下し大んりトハんラ又延サカラ押テ持

心アルへし半帕んり一此ん此ん延ル心他所ヨ

ハモ延ル内ニ押タル心アルへし又次ノんコレニハ

心ナシ拍子モアメラス吹スツルト申ハ是ナリ

サテ十リ下延タルニ樂ノ文アリ十次下十次
乞リ此乞ハ始ノ乞程ニ延ス押ハス其ユハ次ノ一
リト可延用ナリ上ノ乞ヲイタク延タル句ノ
切吹ノヒラ樂シタルモハ同詞ナレハ不注之
取々少ク注タル趣ニテ始終ノフリカ、リ拍子合
ヲ可吹知ナリ

。喚頭一火凡火一火比。

。玉樹後庭花 始亭吹ニ拍子以後延ハ拍子
一由比リ一乞リ乞リ下止火下二乞下止火下乞

リ凡由し凡リ是ニテ序樂拍子ニ成取故実ア
リ序ノ二ノノ太コノ凡リト延ヨリ樂拍子ナリ
其ヨリ樂拍子ニ成ト心得タルハ凡ハ三延テ小
息ナリ拍子ノ譜ハ三延テ小息トシルセリ毎気
ノ譜ニ下乞リ凡凡し凡凡リトシルセリ然ハ大
鼓アタル凡ノ上ニ凡一拍子ノ譜ニ載タルニ加ク
ルヘレ仍古譜ノ如ナラハ凡ヲ一吹加ヘリ歎當
時ハ只下乞リト吹テ凡由し凡リト吹ナリ又
始ノ一由比ヲ一息ニ毎気ノ譜ニ注ナリ當時ハ

只一曲比一乞平ト吹クセアマタアリ其取ヲ
注比毎氣ノ譜一一比比乞一凡比比下乞乞十下下比上
ノ句ノ切取能吹一後ノ下ニ句ヲ切スレテ十
下下ししト吹テハ大ニワルキナリ下ニテ切テし
し下下ト吹一又一乞下し下乞凡由し凡比
毎氣譜六一乞乞下しし下乞凡凡し凡凡
凡凡凡凡凡凡如比注セリ但し前ノ拍子ノ譜ノ
定ラ一ツ用他取モ此吹クセニテサトル一し

○寂涼列

延八拍子

凡比此凡二八延テ三ノ凡ハノ一ス第三ノ太コノ
後乞下し凡由下し凡比此ノ上ノ下しハし二
十リ後ノしハ拍子ナシ以後同前吹ノセトモア
リ能クアキラメテ吹一し

○賀殿

○道行 四鞞鞞 鳥急ヲ吹也

急ハ早八拍子道行ノ時也

第三之太鞞後乙下下下下し凡下し凡比ト當
時吹ヲ下し凡し凡凡凡凡凡凡ト吹カヘタリ此後
説者每息ノ譜ニ注道行時如此吹替タルモ又

面白シ若アヤミレルカト能其所ヲ見合タリ云々
此説ヲハ不傳侍間後ニ分別スル也未代ノ為ナレ
ハ委注之賀殿急ノ時ハ下^{各ノ譜}シ凡下^レ凡^レ注
タリ然ハ道行之時吹替タルコトハ只鳥急ヲ其
一、吹ニ對ノハ説トモ云ヘシ今ノ所無不審

○破 庭八拍子譜向无不審仍不注之

○急 四拍子 譜ニ無不審

○北庭樂 早八拍子

第九ノ太^ク後凡比二比一^ニ凡^レリトアリ當時用

ハ凡比一比比一^ニ凡^レトアリ同第十ニノ大^ク
後ノ凡十一比一^ニ凡^レ是^レ此^レヲ加^テタリ
此^レヲ用^ヘレ

○美和樂 庭八拍子 譜无不審

○胡飲酒

○序

凡^レ後ノ凡^レ庭^レ一^レ凡^レ以後无不審

○破

凡^レ凡^レ下^レ凡^レ此始ノ凡^レハアナカ^クニ庭^ニイサ

力始タル間心アルヘシ才ニノ大コ後詞每息ニハ
 十下下一^レトアリ當時用ハ十^下下^一下^一下^一
 又四ノノ大コノ^レ吹ハルヘシ同ハノノ^レ吹
 ハル才十ノノ大コノ下^レ又中ニ吹ハリテ次ノ下
 下^レ吹ケハヨシ又第^下二^レ吹ハラテ一^下
 吹ケハヨシ
口傳云^レト吹テ一^下吹ハ^レ微ノ上相ナレハオカラナヨシ^レ下
 凡^下ハ^レ宮ヲ吹ケテ^レウツリヨワシ呂ノモノトキコ^レ又^下竹^下吹
 弄槍 延八拍子 譜无不審
 十天樂 延八拍子
 第二ノ大鼓後^レ一^下下^レ下^レ下^レ是ハ拍子ノ

譜也^レ一^下下^レ下^レ下^レ下^レ是ハ拍子ノ^レ一^下下^レ下^レ下^レ下^レ
注^下コトク當時吹ヘシ拍子ノアテ取テ替^レ
 是ハ不審ナカ
 ラニヤ^下也
 壹弄樂 延八拍子 无不審仍不注之
 河水樂 延八拍子 无不審此樂ヨリ美ヲ
 吹始テ以後樂四ニアリイテカ口傳アリ
 韻應樂 延八拍子 无不審但^レ始^レ珍^レリ
 下^レ一^下一^下一^下一^下上ノ^レ中^レ延^下下^レ一^下中

延也然ハ凡三ツ、也以後取无不審

○ 溢金樂 延八拍子 无不審 仍不注之

○ 廻环樂 延八拍子 无不審

○ 淡河鳥 延八拍子

第五ノ大鼓後下下し凡凡下下凡工工一

一行美火下引下此下下し凡凡ト句ヲ切テ

下下凡工工ト句ヲ切テ一ノ中ヲ延テ行美

下引下ト句ヲ切レ此ニ切ラウヲ吹レ以後無下審

○ 歌曲子 延八拍子

拍子譜

口ニ及ノ後十一凡比一凡此始ノ一ハ三ナリ後ノ

一ハヒトツナリ凡比ト一息ニ吹テ一ニ拍子アタ

ル間後ノ一ハヒトツナリ又第十四ノ大コノ後

ノ下しし凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡一一凡一凡

一凡一凡下下凡下凡下凡下凡下凡下凡下凡

○ 如陵類

○ 序

凡下ニ後ノ凡後下ヲ延一レ凡下ニ後ノ下又延

ナリ凡引し凡凡凡又平帖之始

凡リ凡リ下下下凡リ此凡下ヒ又下下下凡リ
 如下下下凡リ如此凡吹下前ニモ云如ク
 凡吹付タルハ楽ノ形ナリ笛ニ合テ凡シノ吹
 下レトモ各存旨アケレハ道ニクテ入ヌナル
 下レ

。破 延八拍子 譜之自吹クヒテ仍不注之

。急 早八拍子

凡リ凡一凡リ 此吹ヤウ双調ニテ委注セリ殊此
 急ハ句ノ切マツタニモ能吹ハ第一ヨキナリ取

分下下下下下凡下下凡凡凡此句ノ上
 ノ凡吹ハリテ次ノ下下凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡
 凡下下凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡
 ツツル下

。菩薩 道行 拍子四以一鼓拍子十六為太鼓一但破自喚頭吹也但取注之

ナリ下下下下下凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡
 已上破下返付 舞止作法有口傳拍子之後程常之道行ト同之

。序 拍子六長説ハ十六拍子又替テ本説ナリ
 凡凡凡凡下下凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡凡

次之大鼓句詞无子細常之序ヨリモ静ニス
テ吹ヘシ

。破 拍子六 延八拍子 説々タク之以樂ニ及与一帛

ん。下。し。此。此。上。ん。ん。此始ノん拍子ノ譜ハ拍子三リシ
タリ然ハ始大九ニアタリ息毎ノ譜

ニ注タルハんんんト拍子ヲアツル也其ハハコアタル取詮大コノ當ルハ
同ナレトモ始ノん三拍子ヲオセハ九ナルニ此旨能ク可存

吹クセナリリレトモ余ノ樂ニアル心ナリ但第四ノ

大コノ取此リ一トヒトイキニ一ん下し下ん 此ノしにナシ
下ニ早移

又第五大コノ後ん下しん 此下しんイカニモウツノシ
ノ吹しんハニナルニ

。安樂塩 延八拍子

第三ノ大コノ後ん下しん下しん下しん 此し皆ニ
上ノんハ中延タルヘシ他ノ取无子細

。壹德塩 同詞ニ拍子ニ安樂塩ト同仍略之

。酒胡子 早四拍子

第二ノ大コノ後し下ん下此ノし下ん下ナカニ
モヲモノトしニヲ少持ニアルヘシ又第五ノ後
下。下。し。此。し。吹ニ息ヲレテシツノテ下し下
引トウツルヘシ人常吹樂ナレトモ如此ハナキ
ナリトモ申サレシナリ

武德樂

早四拍子

是之奧ノシ下 乞下 此拍子如酒胡子

新羅陵王急

早四拍子破不常用仍略之

殊當家ニ説々有之可口傳吹ラセ 仍略之十
六拍子ノ説アリ 名圓長樂又團長樂

私云團ヲ圓トアヤニル歟

又渡物之時青海波ノ十三反調ノ如ク下ヲ不押
是口傳ナリ 不知人他ノ樂ニ不然 吹テ見レ如此
ニテ殊勝ノ物ナリ 常ニ吹試レ

右安譜百未如此注事无之悉以空 介習
吹 於當家嫡々相承為第一雖然未代不
可殘間予始以思案所及筆端注付之能
能守此旨一道之樂始終拍子息入手移
如先祖吹所可習之努々不可有外見而
已

樂記曰

凡音之起由人心生也人心之動物使之然也
感於物而動故形於声々相應故生變々成方

謂之音此音即樂之反于咸羽旄謂之樂者音之所由生也其本在人心之感於物也是故其良心感者其聲噍以殺其樂心感者其聲嗶以後其喜心感者其聲亮以散其怒心感者其聲粗以厲其放心感者其聲直以廉其愛心感者其聲和以柔六者非性也感於物而後動又曰知聲而不知音者禽獸是也知音而不知樂者眾庶是也是故不知聲者不可與言音不知音者不可與言樂

五音 宮土 商金 角木 徵火 羽水

五聲 喉聲 舌聲 齒聲 唇聲 牙聲

八音 金 石 絲 竹 匏 土 革 木

六律 大蕤 姑洗 蕤賓 夷則 無射 黃鐘

六呂 夾鐘 中呂 林鐘 南呂 應鐘 大呂

六樂 雲門黃帝樂又名大卷 大咸堯樂又名咸池

大韶舜樂亦作磬 大夏禹樂

大武武王樂

三舞。七德舞。九功舞。上元舞 唐舞

三夏。肆夏。韶夏。纳夏 私九夏之内三夏ト云フ
本之事林廣記百之

笙五管名物者

高市 唐竹云、
梨地黃蔣 乞竹本根續ノキ、ヲソキツク口全無之ホリク云

幾佐気繪 唐笙此竹之本ニ榘装束一寸余有之口ノ白ニホリ
モアリ

交丸 行上行下クル一八也言ノ外ハ皆榘装束百之
黒管

白樺

寸法節付如此唐竹也云々工竹裏ニ如此書付之貞朝三
年三月造此年号ハ唐ノリ
毛竹ノ末ニ榘装束二寸百之壘繪ニ牡丹唐草地、梨地
鶯ハ黄蔣葉ツルハ白蔣口金ノアツリ大方ノ如シ

法華寺

工竹裏ニ如此注付之貞觀八年七月廿日持定之徳金公使
西國西册寺借住之
亡竹之本ニ榘装束一寸百此竹ノ

節一百之イカケ地ノ黄蔣也

已上五管名物ト甲傳タリ 圖クル取ナリ

古今名物次第不同欵故幸秋自筆撰之者

大岬界繪 古 小岬界繪 古 橘皮 古 雲和 古 否不替 古 小笙 古

法花寺 古 連智白 武家
御所 二千石 仁洞 武市 武家 火置 武家 太子丸 古

罍崎 古 壘繪 中御門殿
小堂代 交丸 石伏見中御言師伊集大寺高蔣
本朝三筒因作之畢

下腰 内裏木 衣冠 古 白樺 新交丸 菅家先祖公里作之畢

唐山名 古 小唐笙 古 無名 古 菊丸 古 蜂丸 古 懷丸 古

古屋丸 古 一管 古 袖丸 古 大唐 武家
御所 通節 古 旅寢 古

今内裏御物英秋進上

本岡前日 新罨前 小笙改家 難波丸日 紅葉山科殿

郭公日 松風日 小唐 閑丸日 獨寢日 糸卷山科殿

橘丸高倉殿 主源寺山科殿 秋風丸日 孔雀丸武家 櫻木日

唐笙日 師子丸富家 千白日 家丸日 寒月日

紫丸 鸞丸 新唐丸 天曆日 蓬萊

鳳凰山科殿 里丸花山殿 変里 公里取持笙今度武家御

應永七年十月九日合擇之木ニテ 小唐之笙変里御返報ニ武家御所ニヒル

依御祕藏里管ニ夕顔ヲニキ繪ニカセラル名

ノ管中ニ予ニ被仰下可書進上由面目至

也斟酌旨再三申重而直被仰下間進書
之為家忝者也 変里者予書入テ

○ 方磬 所物ノ下ニ雖載之大概十レ八重而書之

上一 厄	上二 六	上三 五	上四 印	上五 印	上六 上	上七 上	上八 上
言			師說也 一說印 使道能類也	也			
六	八	五	下	十	斗	卜	七
下八 厄	下七 工	下六 赤	下五 江	下四 上	下三 一	下二 四	下一 合
			禪門 異同				
比	甲	夕	美	十一	下十	七五	九六

笙譜

笙 工 宮 字	笙 上 字	笙 八 字	笙 十 字	笙 也 字	笙 斗 字	義 管 笛 凡	義 管 笙
笙 此 字	笙 七 字	笙 夕 字	笙 美 字	笙 十 字	笙 下 字	笙 乙 字	笙 凡 字

已上古譜如此

古譜說々并師說相並注進之但笙并笛合音
 私勘付之定有訛誤歟又有凡字二所謂上凡
 下凡是也作譜之時兩音混濫有其煩之故今
 始作其字已僕之今業也其恐是多然而天性
 蒙昧之尚為備後覽之他人之可用事耳

六調子品并一十八調子事等注之略之畢

建久四年三月十二日依仰注進之散位百安

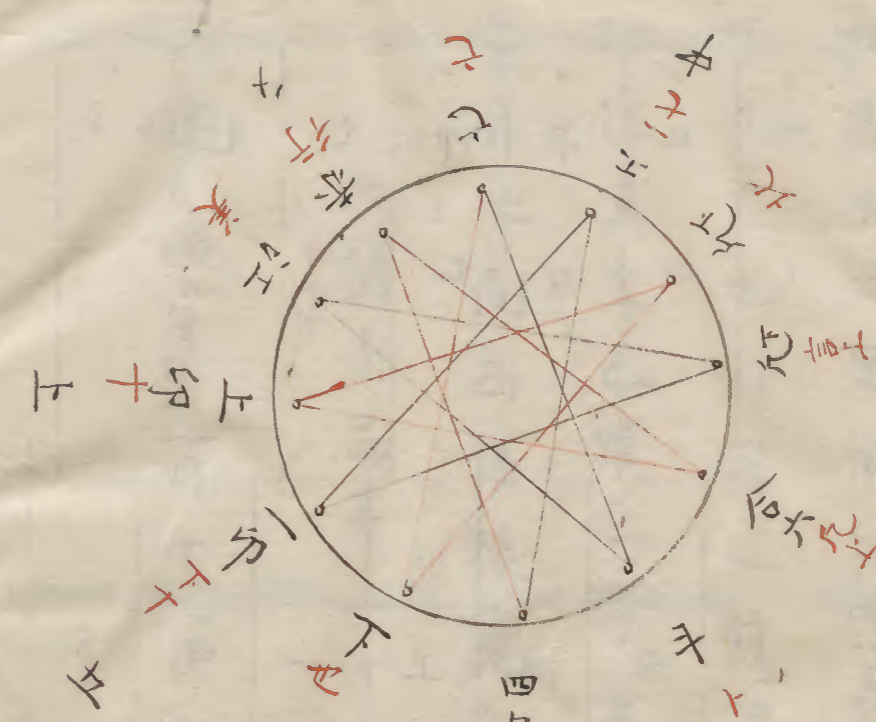
凡	六	五	印	印	七	斗	下
言工	上	八	十	上也十	亦工中	合四中	四一中
凡	工	赤	江	上	一	四	合
此	四二	行凡	美	十	下	七	此

斗
下

大宋國魏奇譜曰

任吉神主津守國基娘之師也

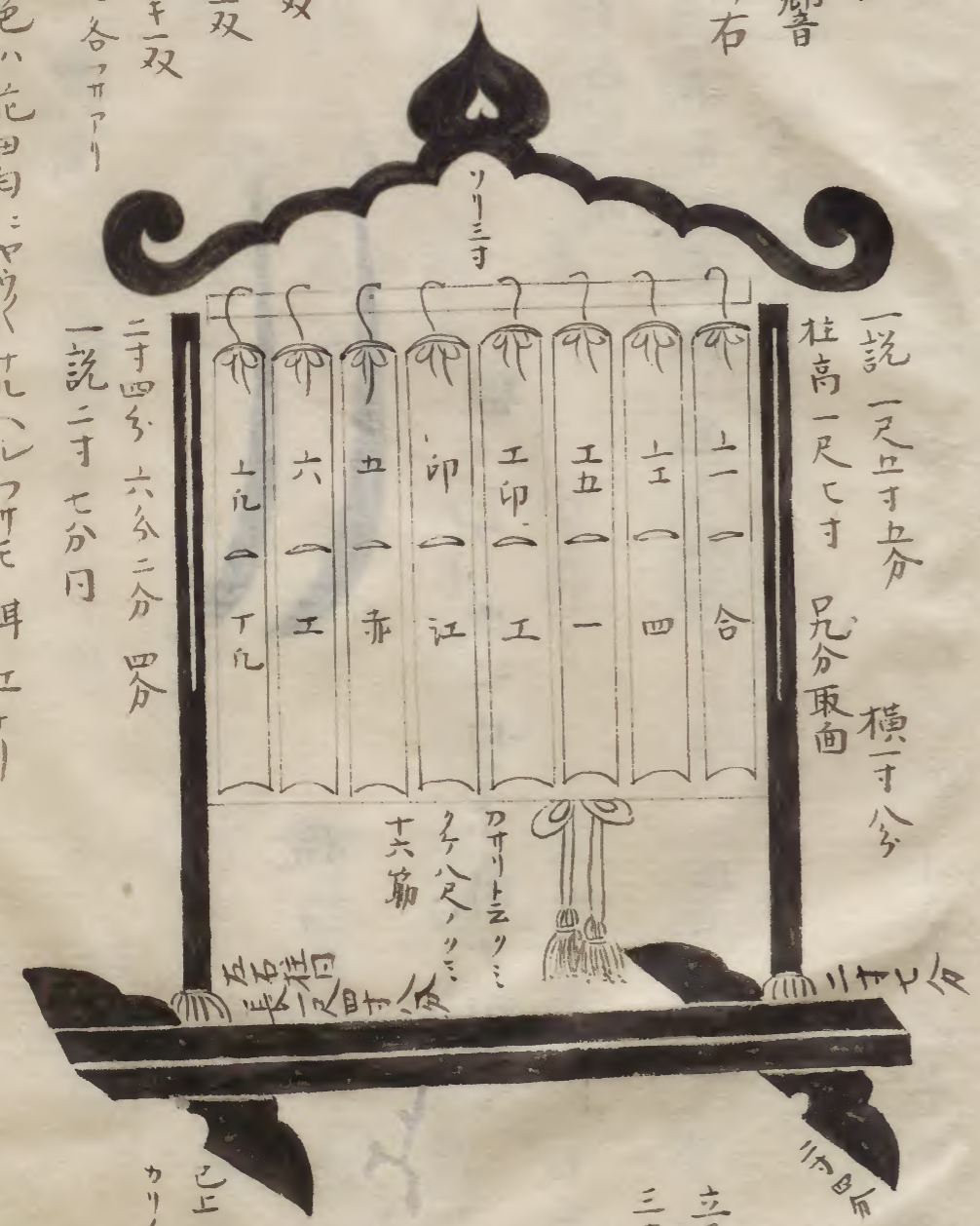
以十二律圖知其位樣 笙笛什之



已上是... 教訓抄
取載之也

方磬
或方響
一名編右

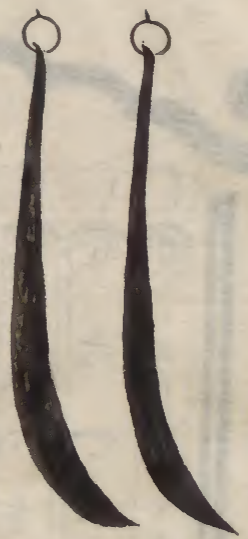
早ニテ
アハイ一雙
スアハイ一雙
又アケニキ一雙
結テヒモ各フカアリ
ノミノ色ハ花田白ニマウクナルヘレフサモ 緋紅ナリ



立居高
三寸三加

已上ノカ
カリノ定ニ

鹿角、鯨ヒケ



挽ナリ

鯨ノヒケ無之時牛角ヲ用之

金名之次

合四一江亦工下凡上凡六五印上印上五上五上

一訖 金名替

合四一江亦工下凡上凡六五印上印巳下

凡八調

仲呂調 越調 平調 仙呂調 雙調

盤步調 高、 黃鐘、 大石、 小石、

高大石、 高平、 正平、 坎損、 大石角、

雙角、 高角、 正宮、 仙呂宮、 南呂、

黃鐘宮、 道宮、 中呂宮、 高宮、 高宮、

高平角、 延平角、 仙呂角、

し丑七月 甲申二十日 壬子 大宋樂人 魏奇録

奥書

永享三年十一月晦日書之

改名治秋

豊原朝臣重秋

石方磬圖故治秋朝臣自筆記置者也當
時絶畢雖然明白之案譜幸在之條為後
主載之可秘藏之

豊原朝臣統秋

